

パーソナル オーディオシステム

取扱説明書・保証書

準備する

聞く

録音する

カラオケをする

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3～6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口にて修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーの相談窓口にて修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



プラグをコンセントから抜く



指示



下記の注意事項を守らないと
火災・感電・破裂により
死亡や**大けが**の原因となります。

機器を本箱や組み立て式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使用しないでください。

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源ボタンを押して電源を切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

電池は、直射日光、火などの過度な熱にさらさないでください。

付属の電源コードセットは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

機銘板は本機の底面にあります。

ご注意

この装置に対し光学機器を使用すると、目の危険を増やすことになります。

レーザーの仕様

- 放射時間：連続
- レーザー出力：44.6 μ W 未満

この出力値は、7mm の開口部にて光学ピックアップブロックの対物レンズ面より200mm の距離で測定したものです。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない



禁止

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生する恐れがあります。



下記の注意事項を守らないと**火災・感電により死亡や大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない

本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない。内部に水や異物が入ると火災の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニー相談窓口にご依頼ください。



禁止

雷が鳴りだしたら、FMアンテナや電源プラグに触れない

感電の原因となります。FMアンテナ付き製品を屋外で使用中に、遠くで雷が鳴りだしたときは、落雷を避けるため、すぐにアンテナを縮めて使用を中止し、その後は触れないでください。



接触禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。

通風孔をふさがない

本機に新聞紙、テーブルクロス、カーテン、布などをかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさがないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。



禁止

海外では使用しない

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



指示



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。



分解禁止

移動させるとき、長時間使わないときは、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。またFMアンテナ付きの製品を持ち運ぶ際は、目のけがなどをしないように、アンテナを縮めてください。長期間の外出・旅行のときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。差し込んだままにしていると火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所の強度も十分に確認してください。



禁止

照明器具を製品の近くで当てない

本体が変形し故障に至ることがあります。



禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くとときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



禁止

幼児の手の届かない場所に置く

CDぶたやカセットぶたなどに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



禁止

円形CD以外は使用しない

円形以外の特殊な形状(星型、ハート型、カード型など)をしたCDを使用すると、高速回転によりCDが飛び出し、けがの原因となることがあります。



指示

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離されません。



指示

本製品に強い衝撃を与えない

本製品には強い衝撃や過度の力を与えないでください。欠けや割れが発生するとけがの原因になります。その場合には直ちに使用を中止し、破損部には手を触れないようご注意ください。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記のことを必ずお守りください。

本製品では以下の電池をお使いください。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

乾電池*

単2形乾電池(本体用)・単4形乾電池(時計用)

* アルカリ乾電池の使用をおすすめします。

危険 乾電池が液漏れしたとき

乾電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない。

液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービスステーションにご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

警告

- 乾電池は、機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。ショートさせない。
- コイン、キー、ネックレスなどの貴金属類と一緒に携帯・保管しない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使いきった電池は取り外す。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 交流電源で使用するときは電池は取り外す。
- 水などでぬらさない。風呂場などの湿気の多いところでは使わない。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

注意

- 電池を火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。
- 廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。
- 電池には使用期限があります。使用期限が切れた電池を使用すると、極端に電池寿命が短くなる場合があります。電池交換時は、お使いの乾電池が使用期限内であることをご確認ください。

目次

安全のために..... 2

準備する

時計用電池を入れる	11
電源コードを接続する (コンセントにつないで 本機を使うとき)	12
本体用電池を入れる (乾電池で本機を使うとき)	12
時計を合わせる	14

聞く

CDを聞く	16
いろいろな再生方法でCDを聞く	20
繰り返し聞く(1曲リピート再生)	21
繰り返し聞く(全曲リピート再生)	21
順不同に聞く(シャッフル再生)	22
聞きたい曲を好きな順に聞く (プログラム再生)	22
プログラムした曲を繰り返し聞く (プログラムリピート再生)	24
CDの取り扱いとお手入れについて	25

ラジオを聞く	26
ラジオの受信場所とアンテナの 調整について	27
放送局を自動で登録する (自動登録)	29
プリセット番号を選んで 放送局を記憶させるには(手動登録)	30
登録した放送局を聞く (プリセット選局)	31
お気に入りラジオ局(登録:長押し) ボタン に放送局を登録する	31
お気に入りラジオ局(登録:長押し) ボタン に登録した放送局を聞く	32
テープを聞く	32
再生/録音および消去ヘッドの 清掃のしかた	36
外部機器をつないで聞く	38
ヘッドホンをつないで聞く	39
おやすみタイマーを使う	40
めざましタイマーを使う	41
めざましタイマーのスヌーズ機能	43

録音する

テープに録音する	45
いろいろな録音方法で	
CDの曲を録音する	47
ラジオを予約録音する	48
録音した曲や音声を消去する	52

カラオケをする

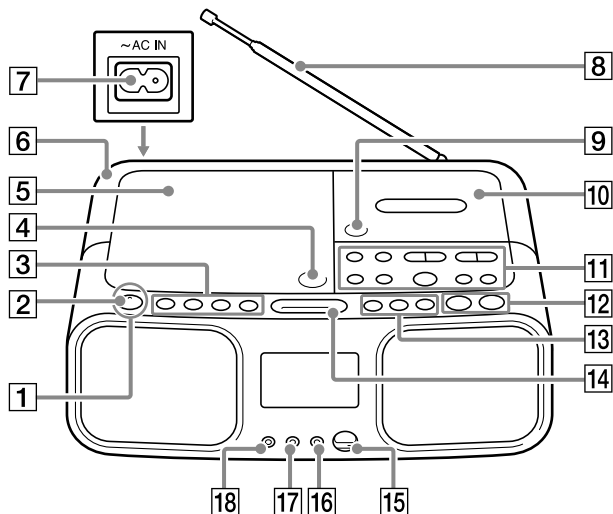
カラオケをする	54
カラオケやマイクの音声を録音する	55
マイクで話す(拡声する)	57

その他

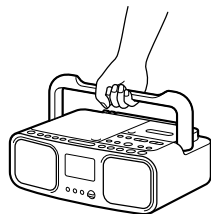
困ったときは	58
サポートページのご案内	64
メッセージ一覧	65
使用上のご注意	66
主な仕様	67
ディスクとカセットテープについて	69
再生できるディスク	69
再生できるファイルについて	69
使用できるカセットテープ	69
保証書とアフターサービス	70
索引	72

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。
また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

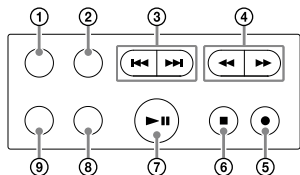
各部のなまえ



本機を持ち運ぶときは、ハンドルを立ててしっかり握ってください。



- 1 電源ボタン
- 2 電源ランプ
- 3 機能ボタン
CDボタン
FM/AMボタン
テープボタン
音声入力ボタン
- 4 CDぶた(押す開/閉△)
- 5 CDぶた
- 6 ハンドル
- 7 ~ AC IN端子
- 8 FMアンテナ*1
- 9 カセットぶた(押す開/閉△)
- 10 カセットぶた
- 11 操作パネル
- 12 音量+ボタン*2、音量-ボタン
- 13 お気に入りラジオ局(登録:長押し)ボタン
- 14 明るさ・スヌーズボタン
- 15 マイク音量つまみ
- 16 マイク入力端子*2
- 17 音声入力端子
- 18 ♪ (ヘッドホン)端子
- ③ 登録局選択+、(▶▶) (曲送り) ボタン
登録局選択-、(◀◀) (曲戻し) ボタン
- ④ 選局+、(▶▶) (早送り)、決定ボタン
選局-、(◀◀) (早戻し)、戻るボタン
- ⑤ 録音(●)ボタン
- ⑥ 停止(■)ボタン
- ⑦ 再生/一時停止(▶||)ボタン*2
- ⑧ おやすみタイマーボタン
- ⑨ 再生/FMモードボタン



- ① 表示/時計(設定:長押し)ボタン
- ② めざまし/予約録音(設定:長押し)ボタン

*1 FM放送を受信するときは、FMアンテナを引き出してください(AMアンテナは本体に内蔵されています)。

*2 凸点(突起)がついています。操作の目印としてお使いください。

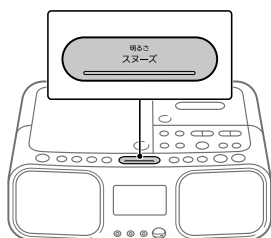
表示窓



- 1 時計表示エリア
- 2 音量表示
通常再生時の音量調節のときや、めざましタイマー、予約録音機能で音量を設定するときに点灯します。
- 3 時間表示
おやすみタイマーで時間を設定するとき、また予約録音機能で録音時間を設定するときに点灯します。
- 4 録音表示
テープに録音しているとき、また予約録音機能で録音時間を設定するときに点灯します。
- 5 FM放送ステレオ再生表示
本機のラジオ機能でFM放送をステレオで再生しているときに点灯します。
- 6 CD再生モード表示
現在設定している再生モードの表示が点灯します。
- 7 午前／午後表示
めざましタイマーや予約録音の設定時間を表示するときに点灯します。
- 8 トラック表示
曲番号が表示されているときに点灯します。
- 9 テキスト情報表示エリア
CDの総曲数や再生中のトラックの再生経過時間などのトラック情報、音量レベル、テープ再生時のテープカウンター、予約録音で設定している録音開始時刻、ラジオ局の周波数などが表示されま
す。
- 10 タイマー機能表示
おやすみタイマー
おやすみタイマーの設定・動作中に、点灯または点滅します。
めざましタイマー
めざましタイマーの設定・動作中に、点灯または点滅します。
予約録音
ラジオの予約録音の設定・動作中に、点灯または点滅します。
- 11 時計用電池アイコン
時計用電池の残量が少なくなってくると点灯します。
- 12 本体用電池アイコン
本機を乾電池でお使いのときに、電池残量を表示します。

表示窓の明るさについて

表示窓の明るさは、**明るさ・スヌーズ**ボタンを繰り返し押すことで調整することができます
(初期設定：明るさ(中))。



電源が入っているとき(4段階)

明るさ(中) → 明るさ(強)
↑ 明るさ(弱) ← 消灯 ←

電源を切っているとき(3段階)

明るさ(中) → 消灯
↑ 明るさ(弱) ←

ご注意

- めざましタイマーのスヌーズ機能(43ページ)の使用中は、「電源を切っているとき」の3段階で表示窓の明るさを調整することができます。
- 乾電池で本機をお使いのときは、電源を切ると自動的に表示窓が消灯します。**明るさ・スヌーズ**ボタンを押すと、最後に選んでいた「電源を切っているとき」の設定(「明るさ(中)」または「明るさ(弱)」)で4分間点灯します。

準備する

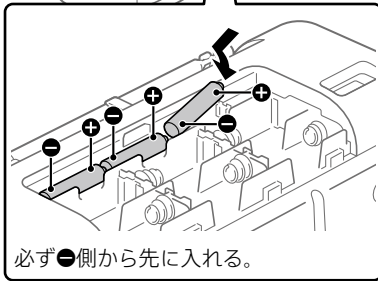
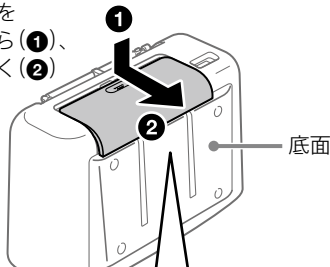
時計用電池を入れる

電源コードを接続していないときや、停電のときなどに時計や内蔵タイマーの設定内容を保つため、時計用電池として別売りの単4形乾電池3本を入れておく必要があります。

本機は時計用電池のみでは動作しません。必ず電源コードを接続するか、本体用電池(単2形乾電池6本)を入れてお使いください。

電池ぶたを開き、別売りの単4形乾電池3本を④と⑤の向きを確認して入れてください。

電池ぶたを押しながら①、手前に引く②



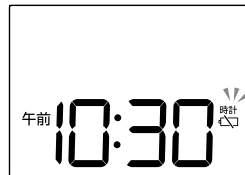
ご注意

- 電池には使用期限があります。使用期限が切れた電池は使わないでください。買い置きしたまま長時間放置した乾電池なども消耗して使えない可能性がありますのでご注意ください。
- 電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂の恐れがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ④と⑤の向きを正しく入れてください。
 - 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わないように、電池を入れる前に確認してください。

- 乾電池を出し入れするときは、本体やCDなどが傷つくのを防ぐために次のことを必ず守ってください。
 - 電源コードを抜く。
 - CDを取り出す。
 - FMアンテナを元の位置に戻す。
 - テープを取り出す。
- ニッケル水素充電電池は、同形のアルカリ電池に比べて電圧が低く、電流量や充電容量などの関係で本機では使用できません。
- 時計用電池を交換すると、時計設定がリセットされます。電源を入れたあとに「時計を合わせる」(14ページ)をご覧ください。もう一度時計を合わせてください。

時計用電池の残量について

時計用電池の残量が少なくなってくると、表示窓に時計用電池アイコンが点灯します。アイコンが点灯したら、3本とも新しい電池に交換してください。



各種設定の消去／保持について

時計用電池が入っていないと、電源コードを抜いたり停電になった場合、以下のように、本機のメモリーに設定した内容が消去されるものと保持されるものがあります。時計用電池を入れているとこれらの設定はすべて保持されますので、必ず時計用電池を入れて本機をお使いください。

• 消去される設定

時計設定、FM放送の受信モード設定(ステレオ/モノラル)、めざましタイマー設定、ラジオの予約録音設定、表示窓の明るさの設定

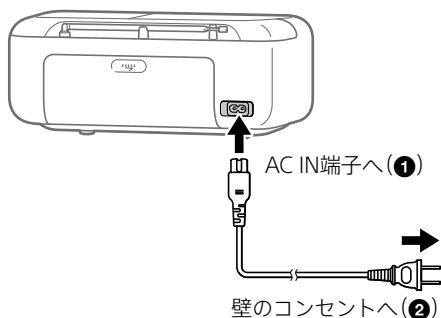
• 保持される設定

自動または手でプリセット登録したラジオの放送局、お気に入りラジオ局(登録:長押し)ボタンに登録した放送局

電源コードを接続する

(コンセントにつないで本機を使うとき)

本体のAC IN端子へ電源コードのプラグを差し込んだあと(①)、壁のコンセントへプラグを差し込んでください(②)。



AC IN端子の奥に当たるまでしっかりプラグを差し込んでください。

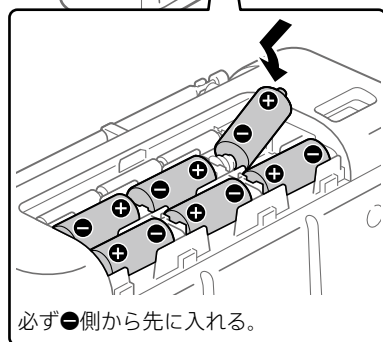
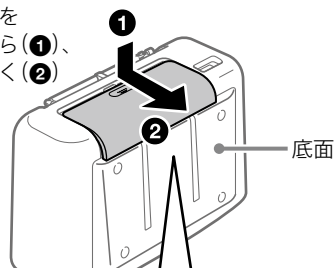
本体用電池を入れる

(乾電池で本機を使うとき)

- アルカリ乾電池のご使用をおすすめします。マンガン乾電池も使用できますが、使用時間が著しく短くなることがあります。
- 本体のAC IN端子から電源コードのプラグを抜いてください。乾電池が正しく入っていても電源コードが本体のAC IN端子に接続されていると、電源検出スイッチが働き、本機の電源は入りません。

電池ぶたを開き、別売りの単2形乾電池6本を⊕と⊖の向きを確認して入れてください。

電池ぶたを
押しながら(①)、
手前に引く(②)



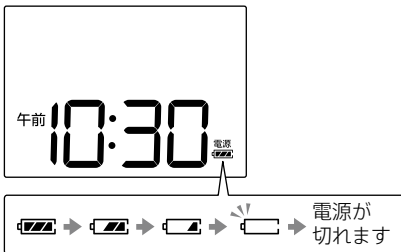
図で示した電池の向きに合わせて入れてください。電池の向きは手前と奥の列で逆になります。


ご注意

- 電池には使用期限があります。使用期限が切れた電池は使わないでください。買い置きしたまま長時間放置した乾電池なども消費して使えない可能性がありますのでご注意ください。
- 電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂の恐れがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ➕と➖の向きを正しく入れてください。
 - 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わないように、電池を入れる前に確認してください。
 - 長い間本機を使わないときは、電池を取り出してください。
- 乾電池を出し入れするときは、本体やCDなどが傷つくのを防ぐために次のことを必ず守ってください。
 - 電源コードを抜く。
 - CDを取り出す。
 - FMアンテナを元の位置に戻す。
 - テープを取り出す。
- 乾電池アダプターなどを使って単2形乾電池以外の電池を使わないでください。単2形乾電池よりも小さい乾電池は、電流量や電池容量が小さく正しく動作できません。また、乾電池アダプターの形状によっては正常に装着できない場合や、電池端子部分での接触不良などが起こる場合があります。
- ニッケル水素充電電池は、同形のアルカリ電池に比べて電圧が低く、電流量や充電容量などの関係で本機では使用できません。




本体用電池の残量について

電源コードを接続しないで本体用電池のみで本機をお使いのときに、表示窓に本体用電池アイコンが点灯します。次のとおり電池残量の状態を表示します。



電池残量がほとんどない状態になると、の警告表示が点滅し、電源が切れます。

ご注意

- 電源コードを接続して本機をお使いのときは、本体用電池が入っていても、残量は確認できません。
- の点灯は、本体用電池の寿命が近づいていることを示しています。引き続き乾電池でお使いの場合は、電池切れに備えて、新しい乾電池をご用意ください。が点滅した後、電源が切れた場合は、電池をすべて新しいものと交換してください。
- 本機は充電電池を内蔵していません。
- 本体用電池が消耗して電源が切れた場合は、電源ボタンを押すとが2回点滅します。2回点滅して電源が入らないときは電池をすべて新しいものと交換してください。

時計を合わせる

時計を合わせる前に、本機に時計用電池を入れてください(11ページ)。

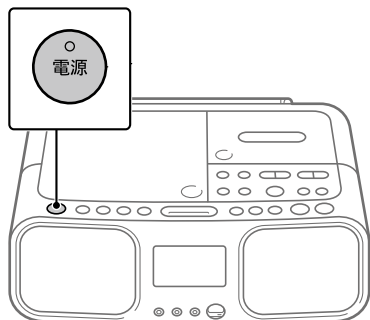
お買い上げのあと初めて電源コードを接続する、または本体用電池を入れると、表示窓で「午前0:00」全体が点滅します。

電源を入れると、「午前」と、「0:00」の時の数字「0」が点滅に変わり、時計を合わせることができます。

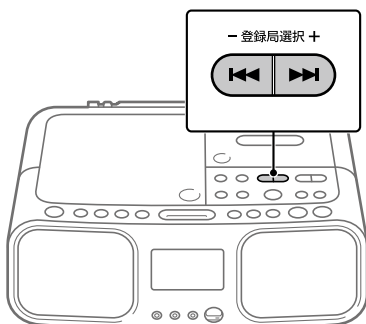


時計を合わせるときは、時報などを利用して正しい時刻に合わせてください。

1 電源ボタンを押して電源を入れる。

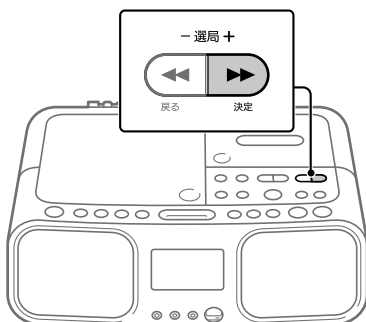


2 時の数字が点滅していることを確認し、登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押して、時を合わせる。



午前／午後の表示も確認しながら合わせてください。

3 選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。 時の設定が確定します。



- 4** 分の数字が点滅していることを確認し、**登録局選択+(▶▶)**または**-(◀◀)**ボタンを押して、分を合わせる。



時の設定に戻りたいときは、**選局-(◀◀)**・**戻る**ボタンを押してください。

- 5** **選局+(▶▶)**・**決定**ボタンを押す。
分の設定が確定し、設定が保存されます。

ご注意

時計合わせの操作の際に、**選局+(▶▶)**・**決定**ボタンを押さずに4分間が経過すると、時計設定がキャンセルされ、「午前0:00」で確定します。時計合わせの際は、**選局+(▶▶)**・**決定**ボタンを押して、時、分の数字を確定してください。

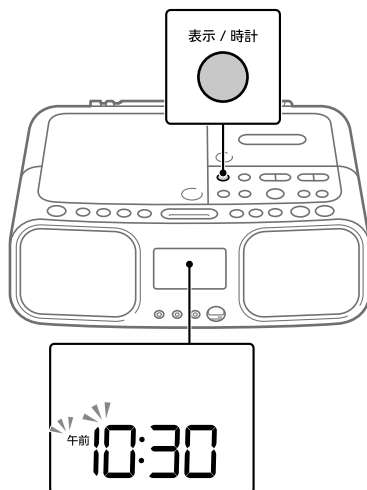
時計をあとで設定したいときは

表示窓で「午前0:00」の時の数字「0」が点滅しているときに、**電源**ボタン、**CD**、**FM/AM**、**テープ**、**音声入力**の機能ボタン、**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンのいずれかを押す。

「午前0:00」で時計設定が確定し、本機をお使いいただけます。

時計を合わせ直すには

本機の電源が入っていることを確認し、表示窓で時の数字が点滅するまで**表示/時計(設定：長押し)**ボタンを長押しする。



「時計を合わせる」の手順2～5の操作を行って時計を合わせ直してください。

ご注意

- 時計用電池を交換したときも時計設定がリセットされるため、時計を合わせ直す必要があります。
- 時計合わせの際に、**選局+(▶▶)**・**決定**ボタンを押さずに4分間が経過すると、時計設定がキャンセルされ、設定前の時刻から4分経過した時刻で確定します(例：設定前が「午後1:30」の場合、「午後1:34」で確定)。時計合わせの際は、**選局+(▶▶)**・**決定**ボタンを押して、時、分の数字を確定してください。

CDを聞く

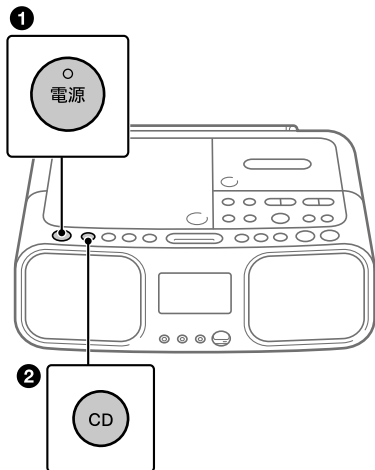
操作をする前に、次のことを確認してください。

- CDが指紋やほこりで汚れていないか確認し、汚れている場合には、汚れを拭きとってください。CDの汚れについて詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。
- CDに傷やひび割れがないか確認してください。傷やひび割れがある場合には、別のCDを使用してください。CDの傷やひび割れについて詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。

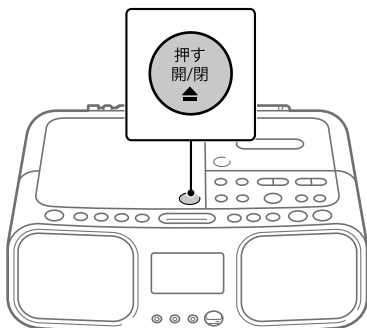


- お使いになるCDが本機で再生できるディスクか確認してください。詳しくは、「再生できるディスク」(69ページ)と「再生できるファイルについて」(69ページ)をご覧ください。

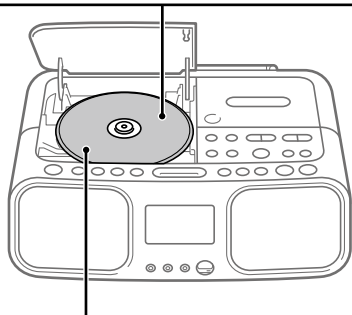
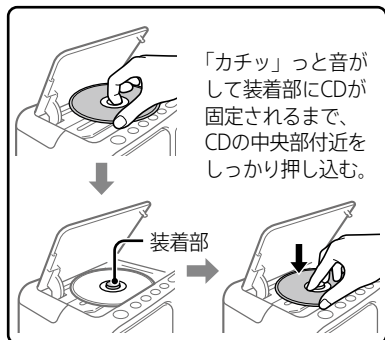
- 1 電源ボタンを押して電源を入れ(①)、CDボタンを押す(②)。



- 2 CDふた上の開/閉▲部を押してCDふたを開ける。



3 CDを入れて、開/閉△部を押してCDぶたを閉める。

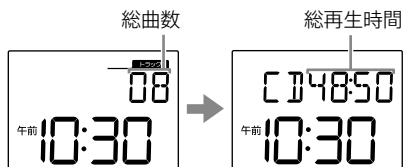


文字のある面(印刷面)を上

CDぶたを閉めると、CDの読み込みが始まり、表示窓に「REPEAT」が点滅します。CDが読み込まれると、表示窓にCDの情報が表示されます。

音楽CDの場合

総曲数が表示され、2秒後に総再生時間が表示されます。



データCD (MP3 CD)の場合

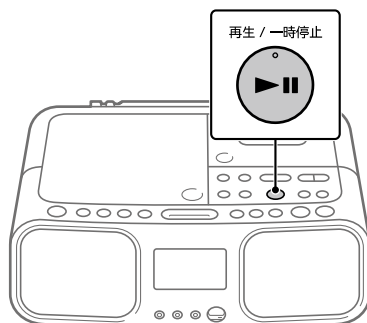
総フォルダ数と総曲数が同時に表示されます。

総フォルダ数* 総曲数



* フォルダの無いデータCDの場合は、「0 0」が表示されます。

4 再生/一時停止(▶||)ボタンを押す。再生が始まります。



再生中は、現在再生している曲の再生経過時間が表示窓に表示されます。

再生経過時間*



* データCD (MP3 CD)で再生時間が100分を超えたときは、「----」と表示されます。

再生中の曲の情報を調べるには
表示/時計(設定:長押し)ボタンを押す。
以下の情報が2秒間表示されます。

音楽CDの場合

現在再生している曲の曲番号が表示されます。



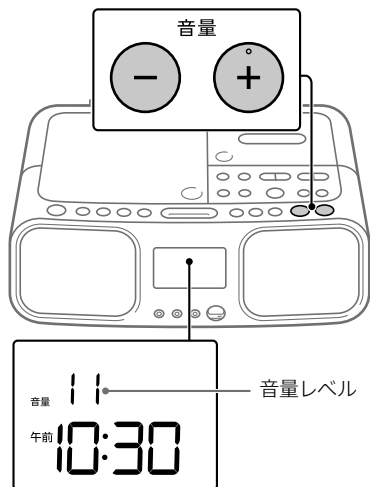
データCD (MP3 CD) の場合

現在再生している曲の曲番号とその曲が格納されているフォルダのフォルダ番号が表示されます。

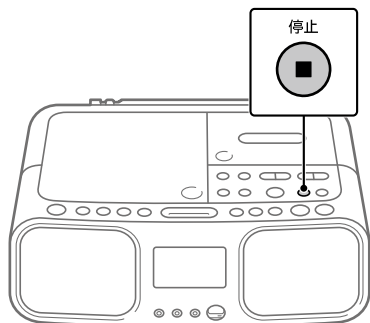
フォルダ番号 曲番号



音量を調節するには
音量+または-ボタンを押す。音量レベルは0から31(最大)の間で調節できます。ボタンを押したままにすると、連続して音量が調節できます。音量を上げると音が割れたり、ひずんだりすることがあります。そのような場合は、音量を調節して適度な音量で聞いてください。



再生をやめるには
停止(■)ボタンを押す。



再生中に一度だけ**停止(■)**ボタンを押すと停止したトラック(曲)を本機が記憶し、次回**再生/一時停止(▶||)**ボタンを押したときは、停止した曲の頭から再生を再開します。

ご注意

以下の操作をすると、本機が記憶したトラックの停止情報はクリアされます。

- 再生中に**停止**(■)ボタンを2回押しで完全停止状態にしたとき
- CDふたを開けたとき
- 本体用電池と電源コードを両方抜いたとき
- **電源**ボタンを押して電源を切ったとき
- 再生モードが「**♻**」(シャッフル再生)、「**▶**」(プログラム)(プログラム再生)または「**◀**」(プログラム)(プログラムリピート再生)のとき

CDの先頭の曲から再生したいときは

• 再生中の場合

停止(■)ボタンを2回押し、**再生/一時停止**(▶||)ボタンを押す。

• 停止中の場合

もう一度**停止**(■)ボタンを押し、**再生/一時停止**(▶||)ボタンを押す。

再生中に一時停止するには

再生/一時停止(▶||)ボタンを押す。

もう一度押しすと、一時停止した位置から再生が再開します。

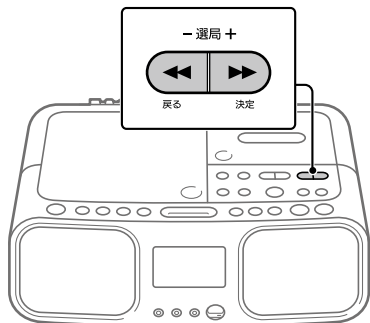
再生中に早送り/早戻しするには

• 早送り

再生中に**選局+**(▶▶)・**決定**ボタンを押したままにして、聞きたいところで指を離す。

• 早戻し

再生中に**選局-**(◀◀)・**戻る**ボタンを押したままにして、聞きたいところで指を離す。



次の曲へ進める/現在再生している曲の頭や前の曲に戻すには (曲送り/曲戻し)

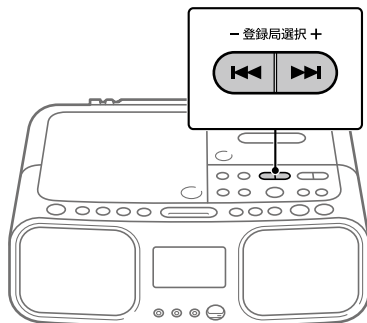
• 次の曲に進めるとき

登録局選択+(▶▶|)ボタンを押す。

• 現在再生している曲の頭や前の曲に戻すとき

登録局選択-(◀◀|)ボタンを押す。

再生中に1回ボタンを押すと現在再生している曲の頭に戻って再生を始め、2回ボタンを押した場合は1つ前の曲の頭に戻って再生を始めます。



データCD (MP3 CD)のフォルダ番号とフォルダ選択について

複数のフォルダを持つデータCDの再生時に再生したい曲が含まれるフォルダを切り換えたときは、停止または一時停止していることを確認し、**登録局選択+**(▶▶|)または**登録局選択-**(◀◀|)ボタンを長押ししてフォルダを選んでください。

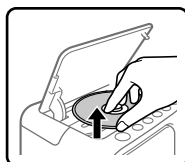
フォルダ番号



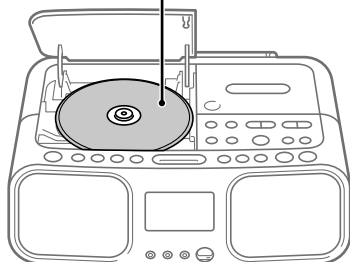
登録局選択+(▶▶|)または**登録局選択-**(◀◀|)ボタンを長押しするたびにフォルダが切り換わります。

CDを取り出すには

停止(■)ボタンを押して再生を止めてから、CDふた上の開/閉▲部を押してCDふたを開き、CDを取り出す。



CDの外周を親指の腹で押し上げるようにして取り出してください。

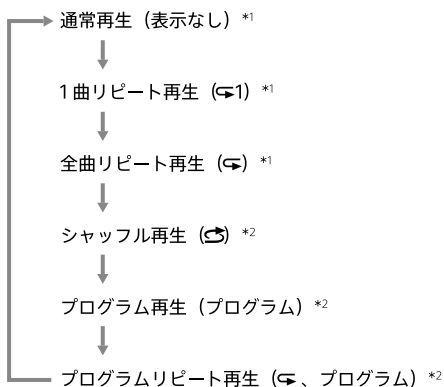
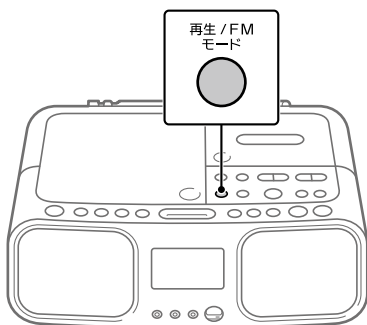


いろいろな再生方法でCDを聞く

音楽CDまたはデータCD (MP3 CD)の音楽を再生するときに、再生モードを設定することでいろいろな再生方法で曲を楽しむことができます。

CD機能以外の機能を使っているときは**CD**ボタンを押してあらかじめCD機能に切り換えてから再生モードを設定してください。

再生モードは、**再生/FMモード**ボタンを繰り返し押しすと以下のとおり切り換わります。




*1 CD再生中、停止中のいずれの場合も選べます。

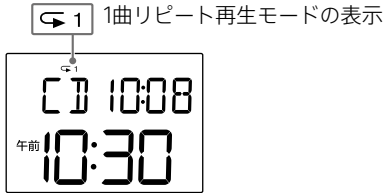
*2 CD再生中は選べません。再生を停止してから設定してください。

繰り返し聞く (1曲リピート再生)

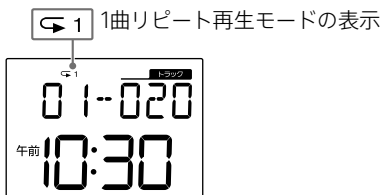
音楽CDやデータCD (MP3 CD)のお好みの1曲を繰り返し聴くことができます。

- 1 「」と「1」が表示されるまで再生/FMモードボタンを繰り返し押す。

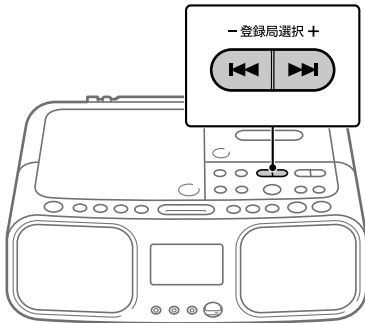
音楽CDの場合



データCD (MP3 CD)の場合




- 2 登録局選択+ (▶▶) または- (◀◀) ボタンを押して曲を選ぶ。




- 3 再生/一時停止 (▶||) ボタンを押す。
1曲リピート再生が始まります。

1曲リピート再生をやめるには

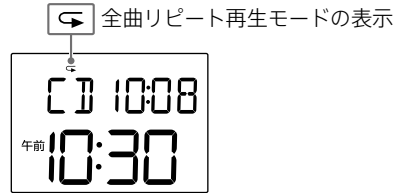
「」と「1」の表示が消えるまで、再生/FMモードボタンを繰り返し押す。

繰り返し聞く (全曲リピート再生)

音楽CDやデータCD (MP3 CD)の全曲を繰り返し聴くことができます。

- 1 「」が表示されるまで再生/FMモードボタンを繰り返し押す。

音楽CDの場合




データCD (MP3 CD)の場合




- 2 再生/一時停止 (▶||) ボタンを押す。
全曲リピート再生が始まります。

全曲リピート再生をやめるには

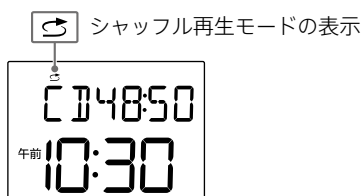
「」の表示が消えるまで、再生/FMモードボタンを繰り返し押す。

順不同に聞く (シャッフル再生)

音楽CDまたはデータCD (MP3 CD)に収録されている全曲を順不同に聞くことができます。操作をする前に、再生が停止していることを確認してください。

- 1 「」が表示されるまで**再生/FMモードボタン**を繰り返し押す。

音楽CDの場合



データCD (MP3 CD)の場合




- 2 **再生/一時停止 (▶||)** ボタンを押す。
シャッフル再生が始まります。

ご注意

- シャッフル再生中に**登録局選択- (◀◀)** ボタンを押すと、再生中の曲の頭に戻ります。ひとつ前に再生された曲に戻ることはできません。
- MP3 CDの場合には、すべてのフォルダ内のすべてのファイルを対象としたシャッフル再生となります。

シャッフル再生をやめるには

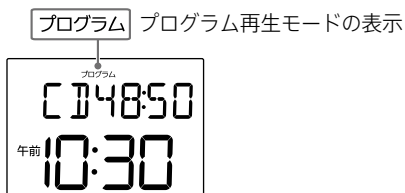
停止 (■) ボタンを押してシャッフル再生を停止し、「」の表示が消えるまで、**再生/FMモードボタン**を繰り返し押す。

聞きたい曲を好きな順に聞く (プログラム再生)

聞きたい曲を聞きたい順に25曲までプログラムすることができます。操作をする前に、再生が停止していることを確認してください。

- 1 「プログラム」が表示されるまで**再生/FMモードボタン**を繰り返し押す。

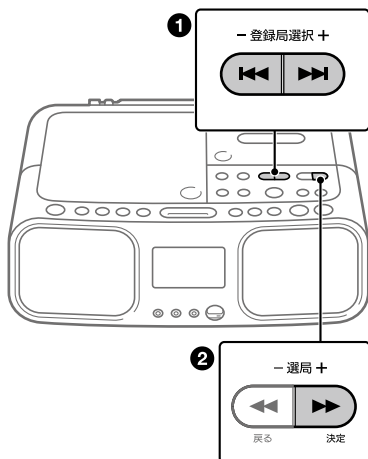
音楽CDの場合



データCD (MP3 CD)の場合



- 2** 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀) ボタンを押して曲を選び(①)、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す(②)。



選んだ曲がプログラムされ、「P--xx」(xxはプログラム番号)が表示されます。



- 3** 引き続き曲を登録する場合は、手順2の操作を繰り返す。

- 4** 再生/一時停止(▶||)ボタンを押す。プログラムした順に曲の再生が始まります。プログラム再生が終わっても、登録したプログラムは保持されます。再生/一時停止(▶||)ボタンを押すと、同じプログラムをもう一度聞くことができます。

ご注意

CDふたを開けたり、本機の電源を切ると登録したプログラムの内容は消去されます。

プログラムした曲の情報を調べるには停止中に選局+(▶▶)・決定ボタンを繰り返し押す。ボタンを押すたびに、次のとおり表示が切り換わります。

プログラムした曲の総数
↓
最後にプログラムした曲の曲番号

プログラム再生をやめるには停止(■)ボタンを押してプログラム再生を停止し、「プログラム」の表示が消えるまで、再生/FMモードボタンを繰り返し押す。


プログラムを削除するには


- プログラム再生中の場合
停止(■)ボタンを押して再生を停止し、もう一度停止(■)ボタンを押す。登録した曲がすべて消え、「noSTEP」が表示されます。
- 再生が停止しているとき
停止(■)ボタンを押す。登録した曲がすべて消え、「noSTEP」が表示されます。

プログラムした曲を繰り返し聞く(プログラムリピート再生)

プログラムした曲を繰り返し聞き聞かすことができます。

操作をする前に、再生が停止していることを確認してください。曲をプログラムしていない場合は、あらかじめ曲のプログラムを済ませてください(「聞きたい曲を好きな順に聞く(プログラム再生)」(22ページ))。

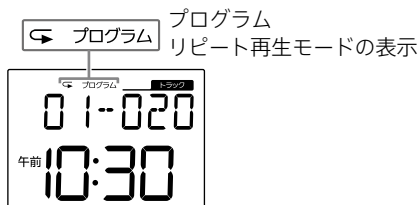
プログラムリピート再生をやめるには**停止(■)**ボタンを押してプログラムリピート再生を停止し、「プログラム」と「」の表示が消えるまで、**再生/FMモード**ボタンを繰り返し押し

- 1 「プログラム」と「」が表示されるまで**再生/FMモード**ボタンを繰り返し押し

音楽CDの場合



データCD (MP3 CD)の場合



- 2 **再生/一時停止(▶||)**ボタンを押す。
プログラムリピート再生が始まります。

ご注意

CDふたを開けたり、本機の電源を切ると登録したプログラムの内容は消去され、プログラムリピートモードも解除されます。

CDの取り扱いとお手入れについて

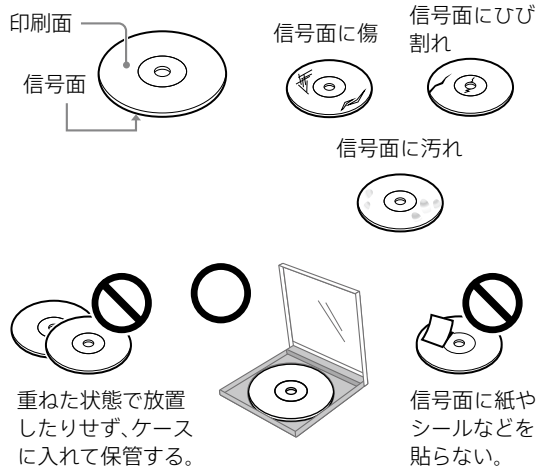
CDをより良い音質でお楽しみいただくには、取り扱いに注意し、いつでも正常に再生できるように、日頃からCDをきれいな状態に保つことが肝心です。

CDの信号面に生じた傷やひび割れ、指紋やほこりによる汚れは、音質低下の原因となるとともに、「今まで再生できていたのに再生できなくなった」などの再生不良の原因になります。

CDの取り扱いかた

信号面に傷やひび割れが生じると、状態によってはCDの再生ができなくなります。指紋やほこりなどの汚れは、CD再生時のエラーや音質低下の原因となります。

CDを取り扱う際は、傷や汚れをつけないように、信号面(文字が書かれていない面)には触れないように持ってください。また、長時間再生しないときは、ケースに入れて保管してください。ケースに入れずに重ねた状態で置いたり、ななめに立てかけて放置するなどと、傷がついたりそりの原因となります。



CDのお手入れのしかた

CDが汚れているときは、傷がつかないやわらかい布や市販のクリーニングクロスで信号面を軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水で少し湿らせて拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。



傷をつけないように、外周に向かって軽く信号面を拭いてください。

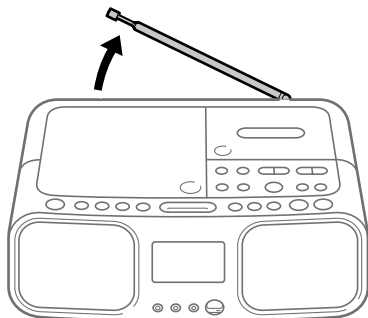
ご注意

ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので使わないでください。

ラジオを聞く

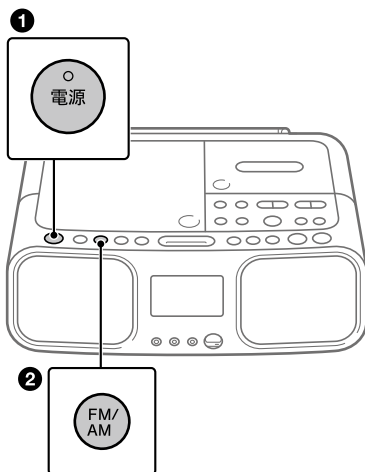
本機は、ワイドFM (FM補完放送)に対応しています。ワイドFM放送とは、AM (中波)放送局の放送エリアにおいて、難受信対策や災害対策のために従来のFM放送用の周波数 (76MHz ~ 90MHz)に加えて、新たに割り当てられた周波数 (90.1MHz ~ 95.0MHz)を用いてAM番組を放送することです。

- 1 FMアンテナを立てる。
(FM放送を受信する場合のみ)



AM放送を受信する場合にはFMアンテナを立てる必要はありません。AM放送受信用のアンテナは本体に内蔵されています。

- 2 電源ボタンを押して電源を入れ(①)、FM/AMボタンを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ(②)。

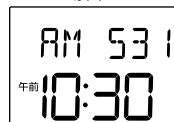


FM/AMボタンを繰り返し押すと、FMとAMが切り換わり周波数が表示されます。

FMの場合



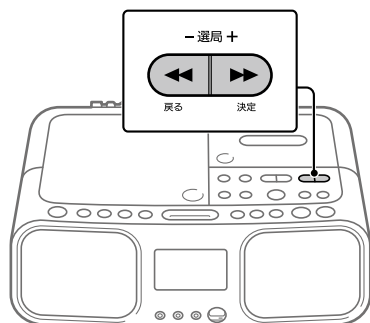
AMの場合



FMの周波数の単位はMHz、AMの周波数の単位はkHzです (例：FMの76.0は、76.0MHz)。

3 選局+(▶▶)・決定または-(◀◀)・戻るボタンを押したままにし、周波数の数字が動き始めたら指を離す。

受信状態の良い放送局が見つかったら、周波数の数字の動きが自動的に止まり、放送を受信します(自動選局)。受信状態によっては、放送局の周波数の前後で自動選局が止まる場合があります。その場合には、**選局+(▶▶)・決定または-(◀◀)・戻る**ボタンを1回ずつ押して、聞きたい放送局の周波数に手動で合わせてください(手動選局)。自動選局中に周波数の数値の動きを止めたいときは、**停止(■)**ボタンを押してください。



FM放送ステレオ再生表示(ステレオ表示)

FM放送をステレオで再生しているときは、表示窓に「ステレオ」が点灯します。



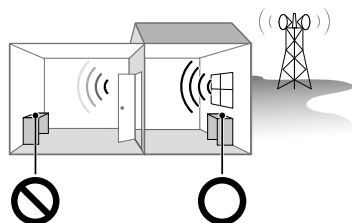
受信状態が悪いときは、受信する場所を変えたり、アンテナを調整してみてください。詳しくは、「ラジオの受信場所とアンテナの調整について」(27ページ)をご覧ください。

音量を調節するには

音量+または-ボタンを押す(18ページ)。

ラジオの受信場所とアンテナの調整について

受信環境によって電波状況が変わります。電波状況が悪い所ではうまく受信できないことがあります。また、電波の届きやすさは周辺の環境に左右されます。電波状況の良い場所を探して放送を受信してください。また、受信したい放送に合わせてアンテナを調整してください。

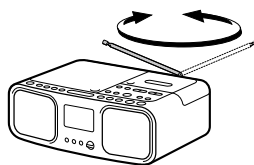


窓から遠いところなど：受信しにくい場所
窓の近くなど：受信しやすい場所

FM放送のとき

• アンテナの向き調整

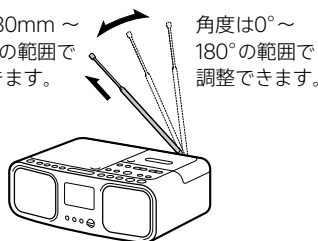
FMアンテナを水平方向に回転させる。本体にぶつからない程度にFMアンテナを傾けた状態で回転させてください。アンテナを立てたまま回転しようとする、アンテナを破損する恐れがあります。



• アンテナの長さ、角度の調整

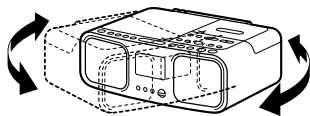
FMアンテナを伸ばし、長さや垂直方向の角度を調整する。

長さは180mm ~ 670mmの範囲で調整できます。
角度は0° ~ 180°の範囲で調整できます。



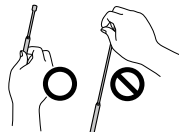
AM放送のとき

本体を最も受信状態の良い方向へ向ける。(AMのアンテナは本体に内蔵されています。)



ご注意

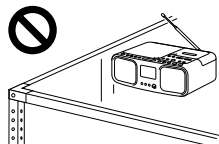
- FMアンテナの長さを調整する場合は、FMアンテナの一番太い部分と先端を手で持って伸縮させてください。
- FMアンテナの角度、向きを調整する場合は、必ずFMアンテナの一番太い部分を持って調整してください。先端部を持ちたり過剰な力を加えてFMアンテナを傾けたり回転させると、アンテナを破損する場合があります。
- 本機に人の手が触れていると電波状況が変わることがあります。手を触れない状態で、電波状況が良い場所を探してください。



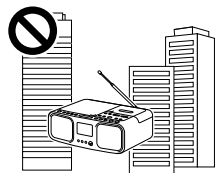
次のような場所では受信状態が悪くなることがあります。



家電製品や携帯電話の近く



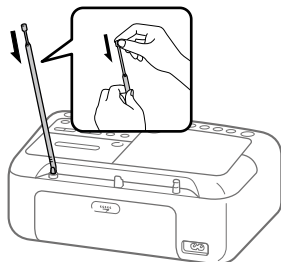
金属製の机や台の上



ビルの谷間

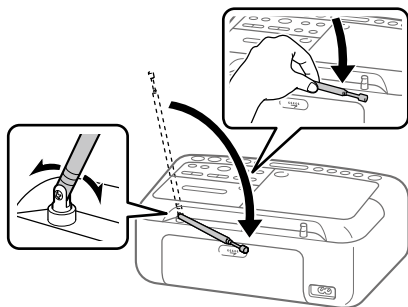
FMアンテナを収納するときは

- 1 アンテナの先端部を持って、FMアンテナを縮める。



アンテナの先端を持ってゆっくりと押し下げて縮めてください。**すばやく押し下げると、縮める際にアンテナが斜めになるなどして、途中で曲がったり、根元で折れたりする恐れがあります。**

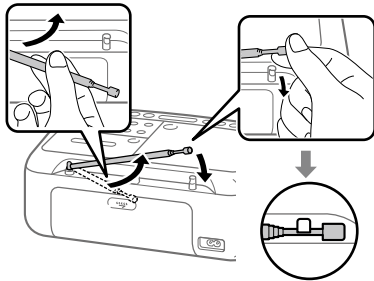
- 2 アンテナの付け根を見て、軽い力で倒せる方向を確認し、アンテナを本体にぶつからない程度に傾ける。



アンテナの付け根の構造上、図の方向にしか倒せません。

不適切な方向に無理にアンテナを倒すと破損する恐れがあります。

- 3 傾けた状態でアンテナ留めの上部まで回し、先端付近を上から押してアンテナ留めにはめる。



FMステレオ放送の雑音が気になるときは

FMステレオ放送の受信中に雑音が多いときは、モノラル受信に切り換えると雑音を低減できる場合があります。

モノラル受信に切り換えるには、表示窓に「Mono」と表示されるまで再生/FMモードボタンを繰り返し押します。

ステレオ放送に戻したいときは、「ST」が表示されるまで再生/FMモードボタンを繰り返し押してください。

モノラル受信



ステレオ受信



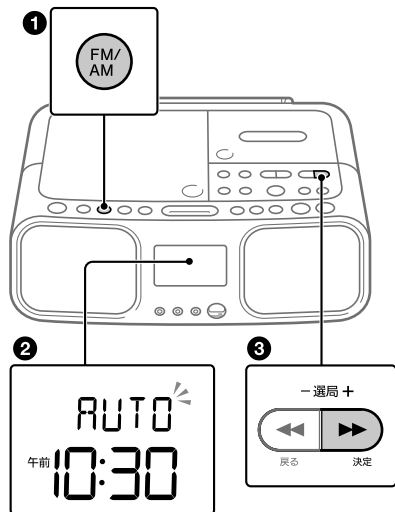
「Mono」または「ST」が表示窓に表示されるまで数秒かかる場合があります。

放送局を自動で登録する (自動登録)

受信状態の良い放送局を自動的に検索して記憶させ、次からは記憶された番号(プリセット番号)でその局を選ぶことができます。FM30局、AM10局の合計40局まで記憶できます。特によく聞くラジオ局は、**お気に入りラジオ局(登録:長押し)**ボタンに登録すると便利です。**お気に入りラジオ局(登録:長押し)**ボタンについて詳しくは、31ページをご覧ください。

- 1 電源ボタンを押して電源を入れ、FM/AMボタンを繰り返し押してFMまたはAMを選ぶ。

- 2 FM/AMボタンを長押しして①、「AUTO」が点滅し始めたら指を離し②、選局+ (▶▶)・決定ボタンを押す③。



受信状態の良い放送局の検索が始まり、プリセット番号の1番から順に、周波数の低い局から高い局へ検索された局が自動的に記憶されます。

ご注意

「RIT」は、約8秒間点滅し、点滅が消えるとプリセットの登録モードが解除されます。解除された場合には、手順2の操作を行って登録をやり直してください。

登録を途中でやめるには

停止(■)ボタンを押す。

プリセット番号を選んで 放送局を記憶させるには (手動登録)

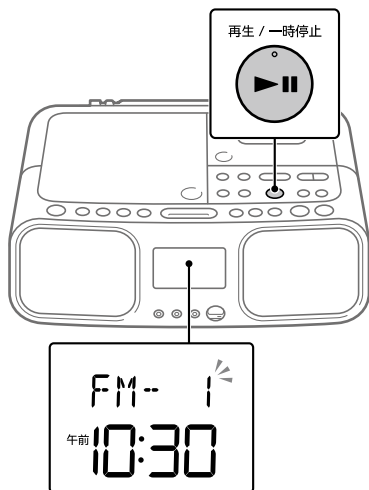
電波が弱く自動登録で放送局が記憶できなかったときや、特定のプリセット番号に放送局を記憶させたいときは、プリセット番号を選んで放送局を記憶させることができます。

1 記憶させたい放送局を受信する。

「ラジオを聞く」(26ページ)の手順1～3をご覧ください。

2 再生/一時停止(▶||)ボタンを長押しする。

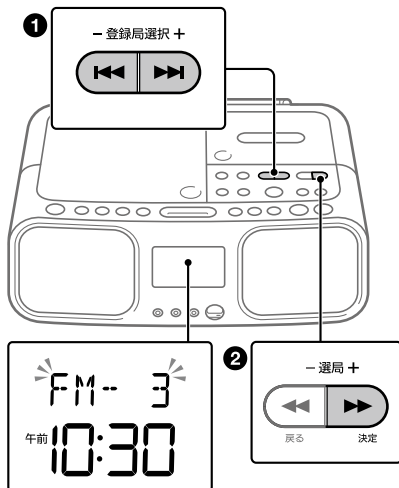
「FM-xx」または「FM-xx」の数字の部分が点滅します。



3 登録局選択+(▶▶)または -(◀◀)ボタンを押して登録したい 番号を選び(①)、選局+(▶▶)・決 定ボタンを押す(②)。

登録が完了します。

登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、現在受信している放送局の登録に置き換わります。



「FM-xx」または「FM-xx」が2回点滅して、周波数の表示に切り換わったら登録完了です。

💡 ちょっと一言

- 記憶させた放送局は、電源コードを抜いたり、乾電池を取り出しても消えません。
- 登録をやめたいときは、停止(■)ボタンまたは選局-(◀◀)・戻るボタンを押してください。

登録した放送局を聞く(プリセット選局)

放送局を記憶させたプリセット番号を選ぶだけで、簡単に放送局を聞くことができます。

- 1 電源ボタンを押して電源を入れ、FM/AMボタンを繰り返し押ししてFMまたはAMを選ぶ。
- 2 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを繰り返し押しして、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

プリセット番号を確認するには

ラジオ(FMまたはAM)の受信中に**表示/時計(設定:長押し)**ボタンを押す。

ボタンを押すたびに、プリセット番号と周波数が交互に表示されます。

受信中の放送局が本機に登録されていない場合、プリセット番号は表示されません。

💡 ちょっと一言

プリセット番号は、FMが1～30番、AMが1～10番の番号で割り振られますが、**登録局選択+(▶▶)**または**-(◀◀)**ボタンを繰り返し押しして選択して上限の番号(FM: 30番、AM: 10番)に達したときは、「ピピッ」と音がして1番に戻ります。

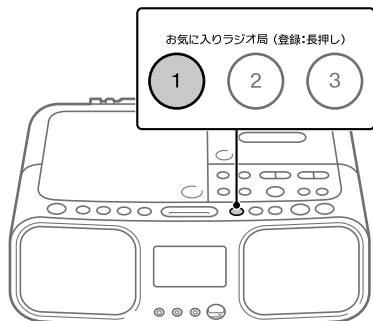
お気に入りラジオ局(登録:長押し)ボタンに放送局を登録する

よく聞く放送局を**お気に入りラジオ局(登録:長押し)**ボタンに登録しておくと、ボタンを押すだけで登録した放送局を聞くことができます。

①、②、③の3つの**お気に入りラジオ局(登録:長押し)**ボタンには、FM、AM合わせて3局までの放送局を登録できます。お買い上げ時の状態では、初期設定の登録としてFM放送の76.0 MHzが3つのボタンにそれぞれ登録されています。以下の手順に沿って登録することで、お好みの放送局の登録に上書きすることができます。

1 登録したい放送局を受信する。
「ラジオを聞く」(26ページ)の手順1～3をご覧ください。

2 「ピー」と音がするまで、①、②、③のいずれかのお気に入りラジオ局(登録:長押し)ボタンを長押しする。
例: ボタン①に登録する場合



「ピー」の音とともに表示窓に**お気に入りラジオ局(登録:長押し)**ボタンの番号と周波数が表示され、2秒後に受信画面に戻り、登録が完了します。

選択したボタンの番号



登録済みのボタンに別の放送局を登録するには

「お気に入りラジオ局(登録:長押し)ボタンに放送局を登録する」の操作をやり直してください。新しい放送局を登録すると、同じボタンに登録していた前の放送局は消えます。

お気に入りラジオ局(登録：長押し)ボタンに登録した放送局を聞く

お気に入りラジオ局(登録：長押し)ボタンを使うと、電源を切った状態からでもすぐにラジオを聞くことができます。

お好みのお気に入りラジオ局(登録：長押し)ボタンを押して、すぐ指を離す。選んだお気に入りラジオ局(登録：長押し)ボタンの番号と周波数が表示され、2秒後に放送を受信します。

選択したボタンの番号



電源が入った状態で①、②、③のいずれかのボタンを押したときは、他の機能を使ってもラジオ機能に切り換わり(テープへの録音中は除く)、選択したボタンに登録されている放送局の放送を受信します。

電源を切った状態でボタンを押した場合は、電源が入り、ボタンに登録されている放送局の放送を受信します。

ご注意

登録した放送局を聞くときに**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを押すのは、2秒以下にしてください。2秒以上押すと、登録していた放送局は、現在受信中の放送局に置き換わります。

💡 ちょっと一言

お気に入りラジオ局(登録：長押し)ボタンに登録した放送局は、電源コードを抜いたり、乾電池を取り出しても消えません。

テープを聞く

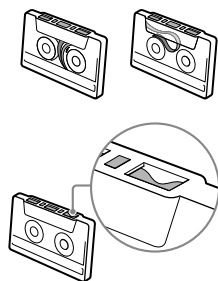
本機では、TYPE I (ノーマル)のカセットテープをお使いください。TYPE II (ハイポジション)、TYPE III (フェリクロム)、TYPE IV (メタル)のテープには対応していません(69ページ)。

操作をする前に、次のことを確認してください。

- テープが機械に巻き込まれるのを防ぐために、カセットデッキに入れる前に鉛筆などでたるみを巻き取るか、カセットデッキに入れたあと再生を始める前に数秒間早送りまたは巻き戻しを行ってください。

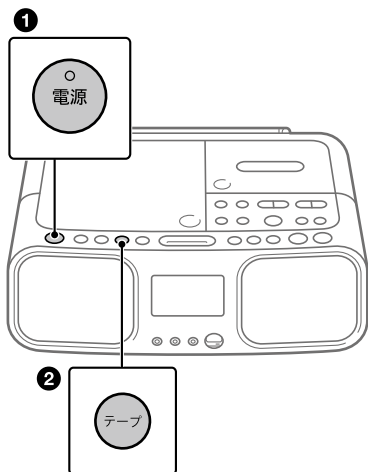


カセット内部でテープがたるんでいる場合もありますので、必ずたるみをとってから再生してください。テープが正しい位置を通らず、動作不良を起こす恐れがあります(62ページ)。

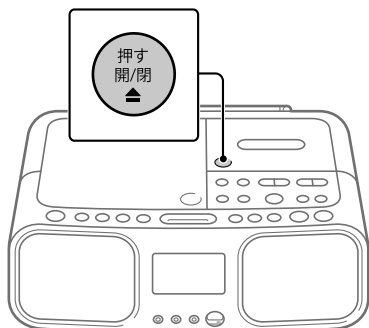


- 長時間テープは機械に巻き込まれる場合がありますので、90分以下のテープをお使いください。

- 1** 電源ボタンを押して電源を入れ(①)、テープボタンを押す(②)。

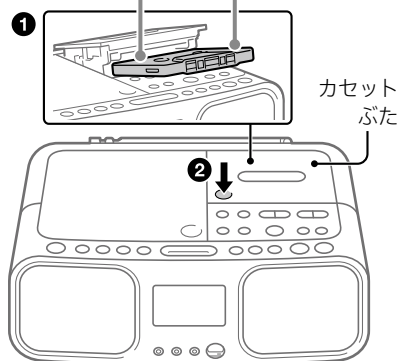


- 2** カセットぶた上の開/閉▲部を押してカセットぶたを開ける。

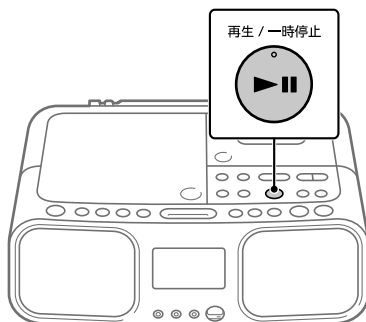


- 3** カセットを入れ(①)、開/閉▲部を押してカセットぶたを閉める(②)。

聞きたい面 (A面またはB面) を上にし、テープ面を手にして入れる。カセットテープはTYPE I (ノーマル) テープをお使いください。



- 4** 再生/一時停止(▶||)ボタンを押す。再生が始まります。



再生中はテープカウンターが表示されます。

テープカウンター



💡 ちょっと一言

表示窓のテープカウンターは、停止中にカセットぶたを開け閉めすると「0000」にリセットされます。あとから頭出しするのに便利です。

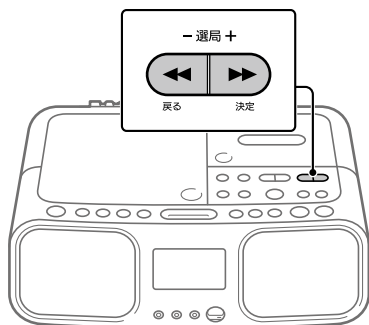
音量を調節するには
音量+または-ボタンを押す(18ページ)。

再生をやめるには
停止(■)ボタンを押す。

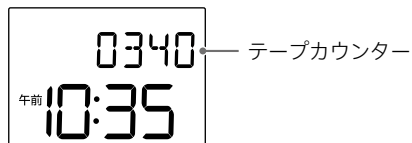
再生中に一時停止するには
再生/一時停止(▶||)ボタンを押す。もう一度
押すと、一時停止した位置から再生が再開しま
す。

早送り/巻き戻しするには
必ず停止(■)ボタンで再生を停止してから、早
送り、巻き戻しの操作をしてください。

- 早送り
選局+(▶▶)・決定ボタンを押し、聞きたい
ところで停止(■)ボタンを押す。
- 巻き戻し
選局-(◀◀)・戻るボタンを押し、聞きたい
ところで停止(■)ボタンを押す。

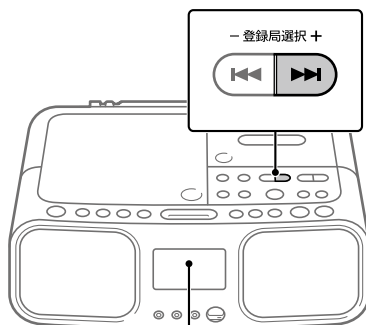


早送り、または巻き戻しの状態は、テープカ
ウンターで確認することができます。



次の曲へ進める/現在再生している曲の
頭や前の曲に戻すには
(曲送り/曲戻し)

- 次の曲に進めるとき
登録局選択+(▶▶)ボタンを押す。
1回押すと「+」が表示され、次の曲に進みま
す。



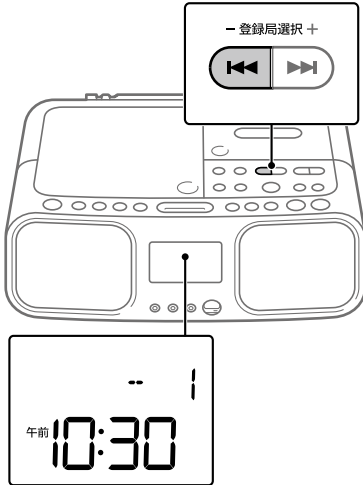
さらに先の曲に進みたいときは、進みたい曲
の数だけボタンを押します。
ボタンを押した回数がプラス表示され、曲が
送られます。曲が送られるごとにプラス表
示の数字が減り、目的の曲まで送られると、
再生が始まります。



● 現在再生している曲の頭や前の曲に戻るとき

登録局選択 (◀◀) ボタンを押す。

1回押すと「-- 1」が表示され、現在再生している曲の頭に戻ります。2回押すと1つ前の曲の頭に戻ります。



さらに戻りたいときは、戻りたい曲の数だけボタンを押します。

ボタンを押した回数がマイナス表示され、曲が戻されます。曲が戻されるごとにマイナス表示の数字が減り、目的の曲の頭まで戻ると、再生が始まります。



ご注意

- 現在再生または停止している曲の前後に録音されている曲数よりも多い回数の**登録局選択+** (▶▶) または **登録局選択-** (◀◀) ボタンを押した場合、以下ようになります。
 - － 曲送りしたときは、テープの最後まで進みそのままテープが止まります。
 - － 曲戻したときは、テープの先頭に戻ったところで先頭の曲の頭から再生が始まります。

- 曲送り／曲戻しは、曲間や音声のフレーズ間の無音状態を区切りとして検出することで機能します。テープに録音されている音源によっては、曲の途中で曲送りや曲戻しがされてしまったり、前曲の終わりの部分や次曲の始まりの部分が再生される場合がありますが、故障ではありません。次のような音源の場合に、意図したとおりに曲送り／曲戻しができない場合があります。

- － 録音されている曲のももとの録音レベルが低い、曲が極端に短い
- － 語学学習用のテープなどの音声
- － 無音部分の多い音声
- － フェードイン、フェードアウトの効果を付けているなど、曲の作り方によって曲間が検出しにくい
- － 曲間が約4秒以下の場合

カセットを取り出すには

停止 (■) ボタンを押して再生を止めてから、カセットぶた上の**開/閉** (▲) 部を押してカセットぶたを開き、カセットを取り出す。

ご注意

- テープの動作中に**停止** (■) ボタンを押さずに電源を切ると、カセットの内部でテープのたるみが発生し、故障の原因となります。必ず**停止** (■) ボタンでテープの動作を止めてから電源を切ってください。
- テープを再生したときに、雑音が多い、音質が悪いといった状態の場合は、再生／録音ヘッドを清掃してください。再生／録音ヘッドは定期的に清掃することをおすすめします。再生／録音ヘッドの清掃について詳しくは、「再生／録音および消去ヘッドの清掃のしかた」(36ページ)をご覧ください。

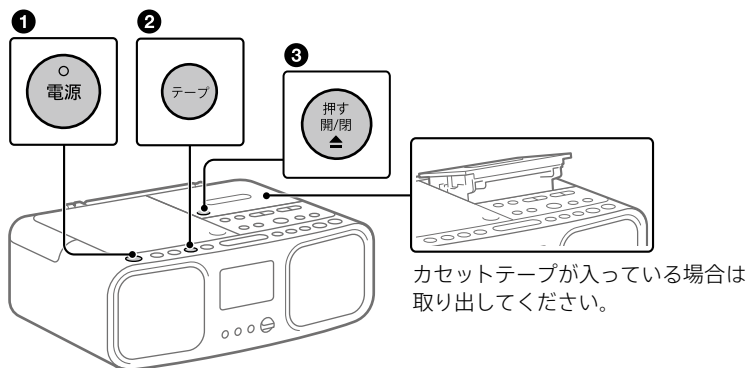
再生時のノイズについて

カセットテープの再生では、機械式であるカセットデッキの構造そのものに起因する動作音や、テープ走行時のヘッドとテープの物理的な接触によって発生する“ヒスノイズ”、周辺の機器などからの電磁波をヘッドが拾うことによって引き起こされる誘導ノイズなど、さまざまな原因によるノイズが発生することがあります。これらは、カセットテープ特有のものであり、故障ではありません。

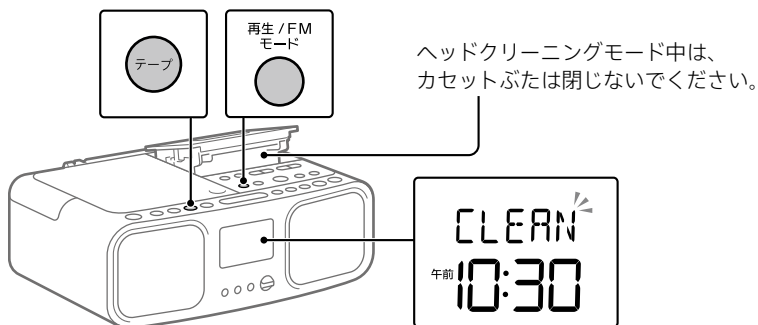
再生／録音および消去ヘッドの清掃のしかた

音が小さい、音が途切れる、録音しても前の音が残るなどの症状が起きたときは、以下をご覧になり、ヘッドを清掃してください。

- 1 電源ボタンを押して電源を入れ(①)、テープボタンを押し(②)、カセットぶた上の開/閉▲部を押してカセットぶたを開ける(③)。



- 2 カセットぶたを開けたままの状態、表示窓に「CLEAN」が点灯するまでテープボタン、再生/FMモードボタンを同時に長押しして、ヘッドクリーニングモードにする。



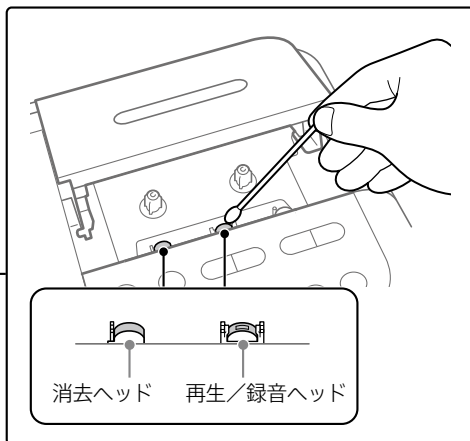
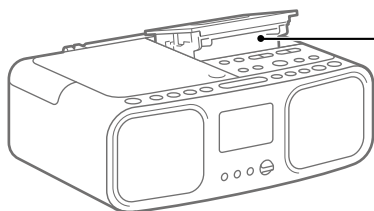
ご注意

ヘッドクリーニングモードにすると、再生／録音ヘッド、消去ヘッドが露出した状態になります。テープの巻き込みやヘッド側面にカセットが接触することを避けるために、ヘッドクリーニングモード中はカセットを入れないでください。

3 綿棒を使って、清掃する。

付属のヘッドクリーニングキットの綿棒を使い、再生／録音および消去ヘッドの曲面部分の表面をから拭きしてください。

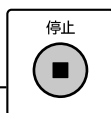
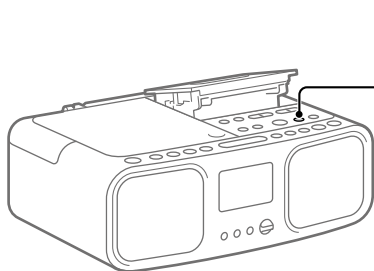
市販のテープヘッド用クリーニング液を綿棒に含ませて清掃するとより効果があります。



ご注意

- ヘッドクリーニング液を使用した場合は、ヘッドが完全に乾いてからテープを入れてください。
- 再生／録音不良、消去不良の原因となりますので、錆び止めや界面活性剤など異なる使用目的の溶剤の使用、ウェットティッシュを使った清掃などはおやめください。
- 綿棒が汚れたときは、市販の綿棒を使ってください。

4 停止(■)ボタンを押してヘッドクリーニングモードを解除する。



2分以上**停止(■)**ボタンを押さなかった場合には、自動的にヘッドクリーニングモードは解除されません。

クリーニングの時間が足りなかったときは、再度ヘッドクリーニングモードにして(手順2)、清掃を行ってください。

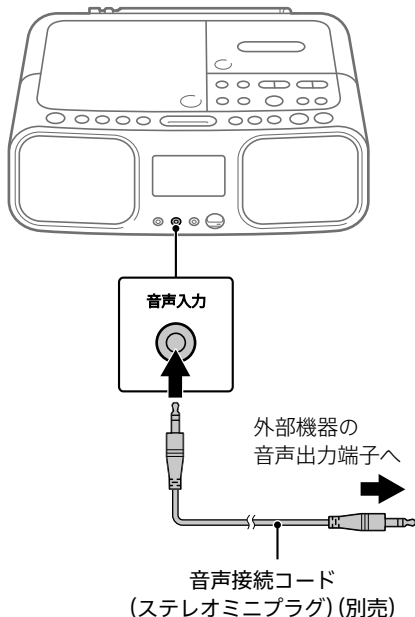
外部機器をつないで 聞く

テレビやデジタルミュージックプレーヤーなどの外部機器を本機の音声入力端子につないで、本機で音を楽しむことができます。

本機と外部機器をつなぐときは、本機と外部機器の電源を切って作業してください。

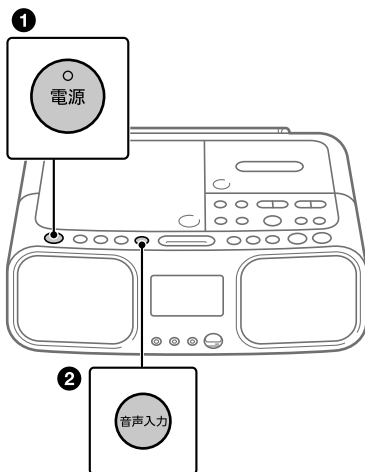
1 外部機器の音声出力端子と本機の音声入力端子を接続する。

別売りの音声接続コード(ステレオミニプラグ)を使って、外部機器の音声出力端子(ヘッドホン端子など)につなぎます。



抵抗入りの音声接続コードを使用すると、音量が小さくなる場合がありますので、抵抗なしの音声接続コードをご使用ください。

2 電源ボタンを押して電源を入れ(①)、音声入力ボタンを押す(②)。



3 つないだ機器で再生を始める。

本機のスピーカーから音声が出力されます。再生について詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

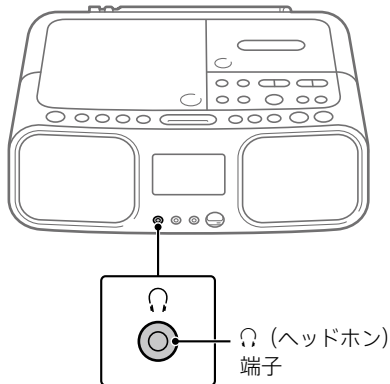
4 音量+または-ボタンを押して、音量を調節する。

ご注意

- ミュージックプレーヤーのヘッドホン端子とつないだ場合は、ミュージックプレーヤー側で音量を上げてから、本機の音量を調節してください。
- 接続した外部機器の出力端子がモノラルジャックの場合は、本機の右側スピーカーから音が出ない場合があります。
- 接続した外部機器の音量が高すぎる場合、音が割れたり、ひずんだりすることがあります。その場合には、外部機器側で音量を下げ、適度な音量で聞いてください。
- 接続した外部機器の出力端子がラインアウト端子の場合は、ひずみが発生する場合があります。音がひずんだ場合は、外部機器のヘッドホン端子につないでください。

ヘッドホンをつないで聞く

1 別売りヘッドホンを本体の🔊 (ヘッドホン)端子につなぐ。



2 聞きたい音源を再生する。

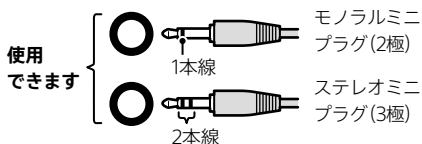
- 「CDを聞く」(16ページ)
- 「ラジオを聞く」(26ページ)
- 「テープを聞く」(32ページ)
- 「外部機器をつないで聞く」(38ページ)

3 音量+または-ボタンを押して、音量を調節する。

耳を刺激しないように適度な音量で聞いてください。

ヘッドホンのご使用について

本機では、モノラルミニプラグ(2極)、ステレオミニプラグ(3極)以外のヘッドホンは使用できません。使用するヘッドホンのプラグを確認してください。



モノラルミニプラグ(2極)のヘッドホンをつないだ場合は、ステレオ放送の左チャンネルのみがヘッドホンに出力されます。

上記以外のタイプのヘッドホンを使うと、ノイズが混じったり、音が出ない場合があります。



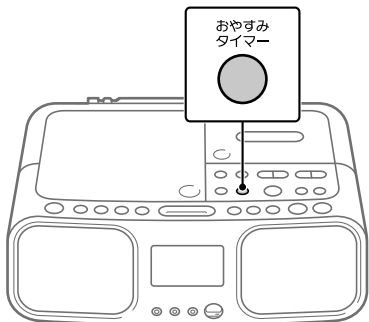
おやすみタイマーを使う

指定した時間がたつと、自動的に本機の電源が切れます。音楽を聞きながらお休みになれます。

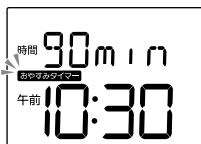
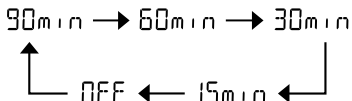
1 聞きたい音源を再生する。

- 「CDを聞く」(16ページ)
- 「ラジオを聞く」(26ページ)
- 「テープを聞く」(32ページ)
- 「外部機器をつないで聞く」(38ページ)

2 おやすみタイマーボタンを繰り返し押し、電源が切れるまでの時間(分)を選ぶ。



ボタンを押すたびに、次のとおり表示が切り換わり、タイマーの時間(分)が選べます。選択後、約4秒経つと、その時点で選んでいた時間でタイマーが確定します。タイマーを使わないときは「OFF」を選んでください。



設定が完了すると、表示窓の「おやすみタイマー」が1回点滅します。

💡 ちょっと一言

- おやすみタイマーが働いているときは、8秒に1回、表示窓の「おやすみタイマー」が点滅します。
- おやすみタイマーが働いているときは、表示窓の明るさは電源を切っているときの設定になります(10ページ)。
- 電源が切れる1分前になると、表示窓の「おやすみタイマー」の点滅は1秒間隔になります。電源が切れる4秒前になると、表示窓全体が点滅し、電源が切れる直前であることをお知らせします。
- テープ機能で録音、消去を行っている間は、表示窓の「おやすみタイマー」の点滅が始まっても電源は切れません。録音、消去が終わってから電源が切れます。
- おやすみタイマーで外部機器の電源は切れません。外部機器の電源は、機器側で切ってください。

電源が切れるまでの時間を確認するには おやすみタイマーボタンを1回押す。

電源が切れる1分前になると、「おやすみタイマー」の点滅は8秒に1回のゆっくりとした点滅から速い点滅に変わります。残り時間を確認する場合は、速い点滅が変わる前に行ってください。速い点滅のスタートから電源が切れるまでの間に**おやすみタイマー**ボタンを押すと、残り時間を表示するかわりに、おやすみタイマーがキャンセルされます。

おやすみタイマーを取り消すには

おやすみタイマーボタンを繰り返し押し、「OFF」を選ぶ。

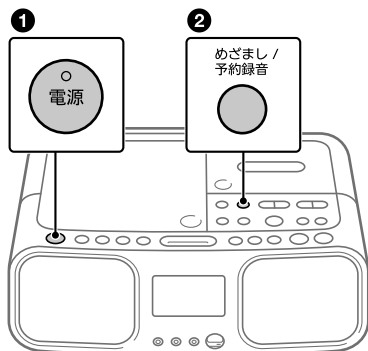
めざましタイマーを使う

CD、ラジオ、カセットテープの音源またはめざましタイマー機能で設定できるブザーのいずれかを目覚まし代わりにすることができます。

操作をする前に、次のことを確認してください。

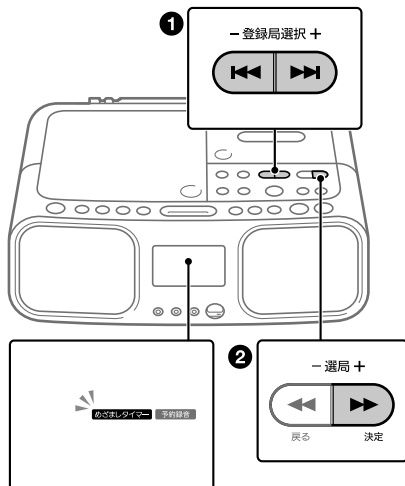
- 時計を合わせてください(14ページ)。
- CDまたはカセットテープを音源とする場合、聞きたいCDまたはカセットテープが入っていることを確認してください。
- めざましタイマーと、ラジオの予約録音(48ページ)の機能は一緒に使用できません。

- 1** 電源ボタンを押して電源を入れ(①)、めざまし/予約録音(設定：長押し)ボタンを長押しする(②)。



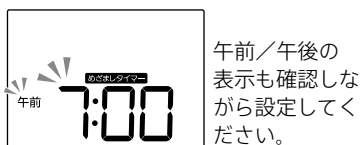
- 2** 表示窓で「めざましタイマー」が点滅するまで登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押し(①)、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す(②)。

手順1の操作で「めざましタイマー」が点滅の状態になっているときは、選局+(▶▶)・決定ボタンを押して手順3へ進んでください。



- 3** めざましタイマーの動作時刻を設定する。

- ① 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押して時を設定し、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。

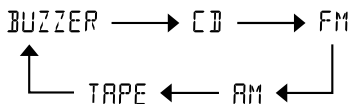


- ② 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押して分を設定し、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。



4 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀) ボタンを押して音源を選び、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。

ボタンを押すたびに、次のとおり表示が切り換わり、音源またはブザー音(BUZZER)が選べます。



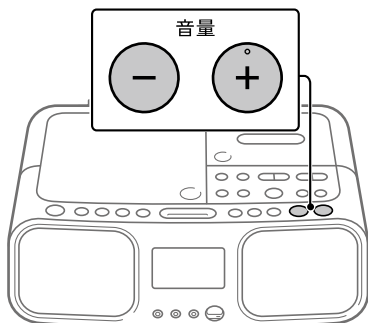
ご注意

CDやカセットが入っていないときや、読み込み中にエラーが発生したときは、「BUZZER」になります。

5 音量+または-ボタンを押して、手順4で選んだ音源の再生音量を調節し、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。

設定が完了します。

なお、「BUZZER」を選んだ場合は、音量は調節できません。



6 電源ボタンを押して電源を切る。

電源を切ると、設定しためざましタイマーの設定時刻が表示されます。

めざましタイマーの設定時刻



めざましタイマーの設定時刻は、変更しない限り保持されます。

設定した時刻になると、表示窓で

「めざましタイマー」の点滅が始まり、設定した音源が最大60分間再生されます。音源の再生後は「めざましタイマー」の点滅が止まり、自動的に電源が切れます。

総再生時間が60分未満のCDが音源の場合には、CDの最後の曲の再生が終わると再び先頭の曲に戻り、上限の60分間に達するまで再生を続けます。

ご注意

CDまたはテープの再生中にエラーが発生したときは、音源は再生されません。無音の状態が動作が継続し、表示窓で「めざましタイマー」が終了時間まで点滅します。ただちに点滅を止めてめざましタイマーを終了させたいときは、電源ボタンを押してください。

めざましタイマーの設定中にひとつ前の操作に戻るには

選局-(◀◀)・戻るボタンを押す。

めざましタイマーの設定を途中で中止するには

停止(■)ボタンを押す。

設定の途中で4分間何も操作しなかった場合もめざましタイマーの設定はキャンセルされません。

めざましタイマーを止めるには

電源ボタンを押す。

めざましタイマーの音源の再生が止まり、電源が切れます。

電源を切らずにめざましタイマーの音源を繰り返し再生したいときは、「めざましタイマーのスヌーズ機能」(43ページ)をご覧ください。

めざましタイマーの設定を確認するには

「めざましタイマーを使う」の手順1～5の操作を行う。

設定の確認を途中で中止したいときは、**停止**

(■) ボタンを押してください。

めざましタイマーの設定を変更するには

「めざましタイマーを使う」の手順1～5の操作を行う。

めざましタイマーのオン/オフを切り換えるには

めざまし/予約録音(設定:長押し)ボタンを繰り返し押し。

「めざましタイマー」の表示が消えるとめざましタイマーはオフになります。

めざましタイマーの設定をオンにしておくと、翌日以降も同じ設定でめざましタイマーをお使いいただけます。

💡 ちょっと一言

一度設定した内容は、時計用電池が入っていれば電源コードを抜いても保持されます。

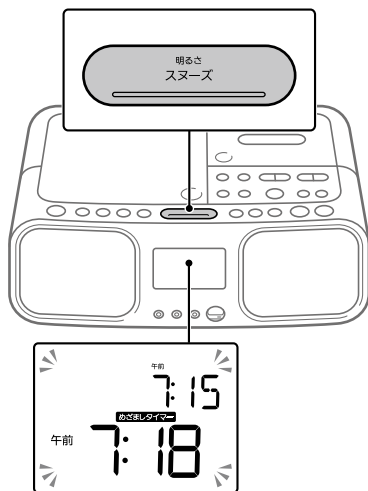
ご注意

- 突然の大音量に驚かないように、音量調節の際は適度な音量に設定してください。
- 時計用電池が消耗して新しい電池に交換すると、時計とめざましタイマーの設定がリセットされます。時計用電池の交換後にめざましタイマー機能を使いたいときは、時計を合わせ(14ページ)、めざましタイマーの設定をやり直してください。

めざましタイマーのスヌーズ機能

めざましタイマーの音源が再生されているときに、**明るさ・スヌーズボタン**を押す。

音源の再生が止まり、5分後にスヌーズ(繰り返し)機能によって再びめざましタイマーの音源の再生が始まります。スヌーズ機能は、めざましタイマーの音源の再生が終わるまでの間は(60分間)、6回までお使いいただけます。



スヌーズ中は、電源を切ったときの画面の状態が表示窓全体が点滅します。

ご注意

CDまたはテープの再生中にエラーが発生したときは、音源は再生されません。無音の状態で動作が継続し、表示窓で「めざましタイマー」が終了時間まで点滅します。ただちに点滅を止めてめざましタイマーを終了させたいときは、電源ボタンを押してください。

スヌーズ機能を止めるには

- スヌーズ機能を止め、めざましタイマーの設定をオンにしておきたいとき

電源ボタンを押す。

「めざましタイマー」が表示されたままとなり、翌日以降も同じ設定でめざましタイマーをお使いいただけます。

- スヌーズ機能を止め、めざましタイマーの設定をオフにしたいとき

めざまし/予約録音(設定：長押し)ボタンを押す。

「めざましタイマー」の表示が消えてめざましタイマーがオフとなり、スヌーズ機能が止まります。

テープに録音する

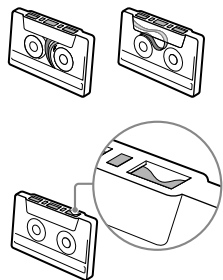
本機では、TYPE I（ノーマル）のカセットテープをお使いください。TYPE II（ハイポジション）、TYPE III（フェリクロム）、TYPE IV（メタル）のテープには対応していません(69ページ)。

操作をする前に、次のことを確認してください。

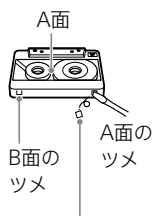
- テープが機械に巻き込まれるのを防ぐために、カセットデッキに入れる前に鉛筆などでたるみを巻き取るか、カセットデッキに入れたあと録音を始める前に数秒間早送りまたは巻き戻しを行ってください。
- 長時間テープは機械に巻き込まれる場合がありますので、90分以下のテープをお使いください。
- カセットのツメが折れているときは録音できません。ツメが折れた部分の穴をセロハンテープなどでふさぐと再び録音できます。



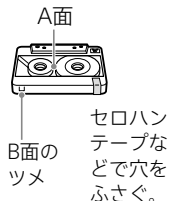
カセット内部でテープがたるんでいる場合もありますので、必ずたるみをとってから録音してください。テープが正しい位置を通らず、動作不良を起こす恐れがあります(62ページ)。



録音できないとき



録音できるとき



録音したあとに、録音できないようにツメを折ったときは、必ず廃棄してください。誤って本体内部に入ると故障の原因になります。

- 電源コードをつなぐ(12ページ)、または乾電池のみで録音する場合には本体用電池の残量が充分あるか確認する。テープへ録音する際は、予期せず録音を終了してしまうことを避けるために電源コードの使用をおすすめします。

1 録音したい音を準備する。

CDを録音するとき(シンクロ録音)

録音したいCDを入れて(「CDを聞く」(16ページ)の手順1～3)、**停止(■)**ボタンを押して再生を停止しておく。

録音(●)ボタンを押すだけでテープの片面が終わるまでCDの先頭の曲からまとめて曲を録音することができます。

その他の録音方法については、「いろいろな録音方法でCDの曲を録音する」(47ページ)をご覧ください。

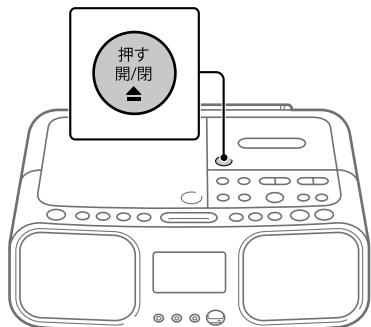
ラジオを録音するとき

録音したい放送局を受信する。(「ラジオを聞く」(26ページ)参照)

外部機器の音声を録音するとき

本機の音声入力端子につないだテレビなどのAV機器やデジタルミュージックプレーヤーを再生する。(「外部機器をつないで聞く」(38ページ)参照)

- 2 カセットぶた上の開/閉▲部を押してカセットぶたを開ける。

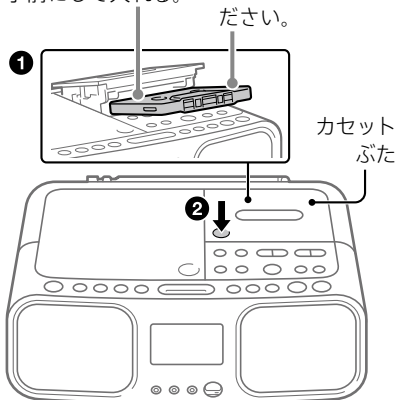


- 3 カセットを入れ(①)、開/閉▲部を押してカセットぶたを閉める(②)。

録音したい面

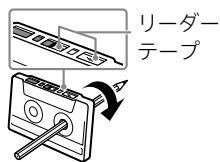
(A面またはB面)を上にし、テープ面を手前にして入れる。

カセットテープはTYPE I (ノーマル)テープをお使いください。

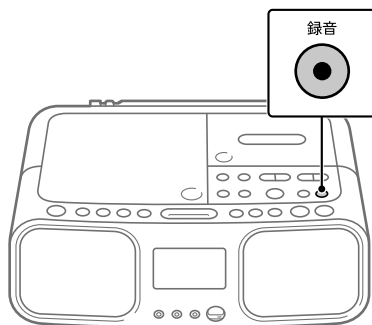


ご注意

テープの両端には「リーダーテープ」と呼ばれる録音できない部分があります(磁性体の塗られていない部分)。録音時の頭切れを防ぐために、「リーダーテープ」の部分は鉛筆などで送ってからカセットを入れてください。



- 4 録音(●)ボタンを押す。



💡 ちょっと一言

ラジオのAM放送の録音の場合に、録音(●)ボタンを押したあとに「ピー」という雑音が出た場合は、ISS (干渉抑制スイッチ)の設定を変えてみてください。ノイズが軽減する場合があります。ISSの設定方法について詳しくは、「録音中のAM放送のノイズを減らすには」(47ページ)をご覧ください。

録音終了時の動作について

CDを録音したとき(シンクロ録音)

録音が終了すると、自動的にCDの再生が停止し、テープも停止します。

ラジオを録音したとき

停止(■)ボタンを押して録音を停止しない限り、テープが終わるまで録音されます。録音を停止したいときに停止(■)ボタンを押してください。

外部機器の音声を録音したとき

停止(■)ボタンを押して録音を停止しない限り、テープが終わるまで録音されます。録音を停止したいときに停止(■)ボタンを押してください。外部機器側の再生は、機器側で停止してください。

テープの片面が終わったとき

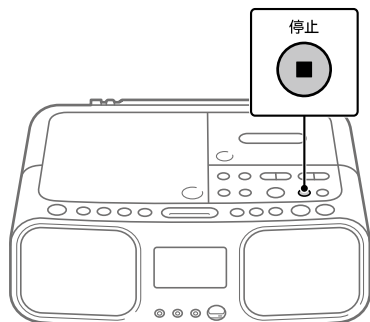
録音中にテープの終わりになると、録音は終了します。B面に続きを録音するときは、カセットをいったん取り出し、B面を上にして入れ直して録音を再開してください。

シンクロ録音でCDの曲が片面に収まらず、B面に続きの曲を録音したいときは、「CDの任意の曲から録音するには」(47ページ)の手順で続きの曲から録音してください。

録音を途中でやめるには

停止(■)ボタンを押す。

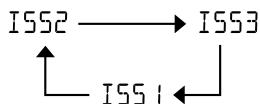
テープの終わりまで録音が到達した場合は、自動的に止まります。テープの途中で録音をやめたいときは、**停止(■)**ボタンを押してください。



録音中のAM放送のノイズを減らすには

再生/FMモードボタンを繰り返し押す。

ボタンを押すたびに、次のとおりISSの設定が切り換わります(初期設定：ISS2)。



適切な設定は、放送局によって変わります。選択したISSの設定は、受信する放送局を変えても維持されますので、ノイズが気になるときは、選局して録音を開始したあとにもっともノイズが消える設定を選び直してください。

いろいろな録音方法でCDの曲を録音する

曲の途中から録音するには

録音を開始したいところで**再生/一時停止**

(▶||)ボタンを押して再生を一時停止し、**録音**

(●)ボタンを押してから、**再生/一時停止(▶||)**

ボタンを押して一時停止を解除する。

録音を停止したいときは、**停止(■)**ボタンを押してください。

停止(■)ボタンを押すとテープへの録音は停止しますが、CDの再生は続きます。CDも停止したいときは、もう一度**停止(■)**ボタンを押してください。

好きな曲順で録音するには

録音したい曲を選んでプログラムしてから

(「聞きたい曲を好きな順に聞く(プログラム再生)」(22ページ)の手順1～3参照)、**録音(●)**

ボタンを押す。プログラム後、**再生/一時停止**

(▶||)ボタンを押す必要はありません。**録音**

(●)ボタンを押して録音を開始すると、自動的に

プログラム再生が始まります。プログラムした曲の録音が終わると、CDとテープは自動的に停止します。

1曲だけ録音するには

録音したい1曲を選んでプログラムしてから

(「聞きたい曲を好きな順に聞く(プログラム再生)」(22ページ)の手順1～2参照)、**録音(●)**

ボタンを押す。プログラム後、**再生/一時停止**

(▶||)ボタンを押す必要はありません。**録音**

(●)ボタンを押して録音を開始すると、自動的に

プログラム再生が始まります。プログラムした曲の録音が終わると、CDとテープは自動的に停止します。

CDの任意の曲から録音するには

CDが停止していることを確認し、**登録局選択+**

(▶▶)または**(◀◀)**ボタンを押して録音を開始

したい曲を選び、**録音(●)**ボタンを押す。

選択した曲の再生が自動的に始まり、CDのそ

の曲以降の曲が録音されます。録音が終了す

ると、CDは自動的に停止します。

録音した音が悪いときは

再生／録音および消去ヘッドの汚れがひどくなると、きれいな音で録音できなくなったり、故障の原因になります。定期的にヘッドの清掃を行うとともに、大切な録音を行う前には、あらかじめ清掃しておくことをおすすめします。ヘッドの清掃について詳しくは、「再生／録音および消去ヘッドの清掃のしかた」(36ページ)をご覧ください。

ご注意

ラジオまたは外部機器の音声を録音するときと、曲の途中から録音する(47ページ)場合は、録音をやめたいところで**停止**(■)ボタンを押して録音を停止してください。録音を停止しない場合は、テープの終わりまで録音が継続されます。録音済みのテープへ録音する場合には、以前の録音も上書きされますのでご注意ください。

ラジオを予約録音する

ラジオ番組を予約して、カセットテープに録音することができます。

操作をする前に、次のことを確認してください。

- 時計を合わせてください(14ページ)。
- 「テープに録音する」(45ページ)に記載している操作前の確認事項をよくお読みください。
- 予約録音と、めざましタイマー(41ページ)の機能は一緒に使用できません。

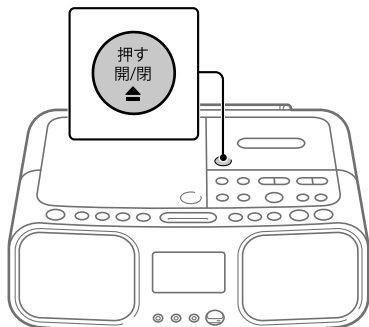
1 録音したい放送局を受信する。

「ラジオを聞く」(26ページ)をご覧ください。

本機の予約録音機能は、予約録音の設定時にラジオ機能(FMまたはAM)を選択することで(手順7)、FMまたはAMのいずれかの機能で最後に受信していた放送局の放送を録音するものです。予約録音の動作時刻が来るまでは他の放送局を受信することができますが、その場合には、予約録音が始まる前までに現在受信しているFMまたはAMの放送局が録音対象でよいか確認してください。

予約録音時の音量の録音レベルは固定となりますので、放送局の受信時に音量を調節しても録音には反映されません。録音中の再生音量については、予約録音の設定の最後で調節できますので(手順8)、お好みで調節してください。

- 2** カセットぶた上の開/閉▲部を押してカセットぶたを開ける。

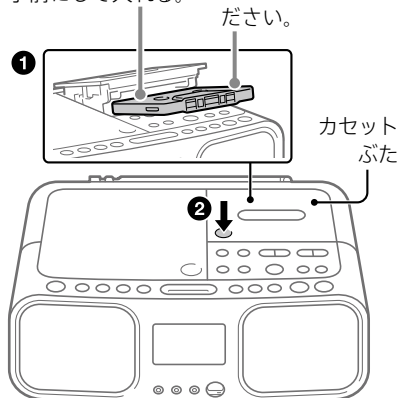


- 3** カセットを入れ(①)、開/閉▲部を押してカセットぶたを閉める(②)。

録音したい面

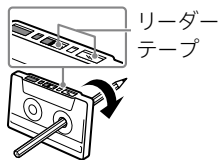
(A面またはB面)を上にし、テープ面を手前に入れて入れる。

カセットテープはTYPE I (ノーマル)テープをお使いください。

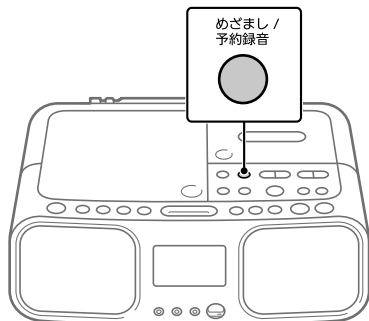


ご注意

テープの両端には「リーダーテープ」と呼ばれる録音できない部分があります(磁性体の塗られていない部分)。録音時の頭切れを防ぐために、「リーダーテープ」の部分は鉛筆などで送ってからカセットを入れてください。

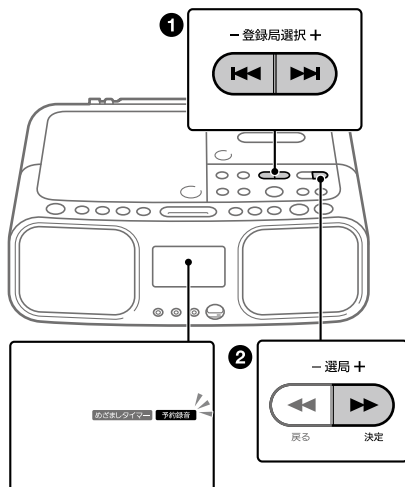


- 4** めざまし/予約録音(設定:長押し)ボタンを長押しする。



- 5** 表示窓で「予約録音」が点滅するまで登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押し(①)、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す(②)。

手順4の操作で「予約録音」が点滅の状態になっているときは、手順6へ進んでください。



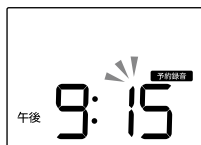
6 予約録音の開始時刻を設定する。

- 1 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押して時を設定し、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。



午前/午後の表示も確認しながら設定してください。

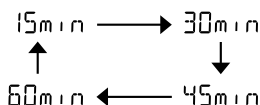
- 2 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押して分を設定し、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。



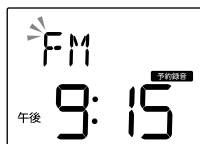
7 録音時間と、ラジオ機能(FMまたはAM)を選ぶ。

- 1 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押して録音時間を選び、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。

ボタンを押すたびに、次のとおり表示が切り換わり、録音時間(分)が選べます。



- 2 登録局選択+(▶▶)または-(◀◀)ボタンを押してラジオ機能(FMまたはAM)を選び、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。



ここで決定したラジオ機能(FMまたはAM)が、予約録音時のラジオ機能となります。

手順1で受信した放送に合わせて、FMまたはAMを選んでください。例えば、FMを選び、予約録音の設定完了後にAM放送を聞いていた場合、予約録音の開始時刻が来ると、自動的にFMに切り換わり、最後に受信していた放送局を録音します。

8 音量+または-ボタンを押して予約録音時の再生音量を調節し、選局+(▶▶)・決定ボタンを押す。

予約録音の設定が完了します。予約録音は、電源を切った状態でも入ったままの状態でも設定時刻にスタートします。

予約録音の設定後に電源を切った場合は、表示窓に設定時刻が表示されます。

予約録音の設定時刻



予約録音の設定時刻は、変更しない限り保持されます。

予約録音の設定時刻になると、設定した再生音量でスピーカーから放送が流れ、表示窓で「予約録音」の点滅が始まり録音がスタートします。選択した録音時間が来ると「予約録音」の点滅が止まり、録音が終了してテープが止まります。

なお、予約録音の設定後に電源を切った場合には録音終了とともに電源も自動的に切れます。電源を切らずに入れたままにしておいた場合は、電源は切れません。

💡 ちょっと一言

再生音量を0に設定すると、予約録音時にスピーカーから音は出ません。夜間などスピーカーからの音が気になるときは、再生音量を0にしたり、小さくしてください。

📌 ご注意

- 予約録音の設定が終了した後、録音動作が始まる前に、予約した同一受信機能 (FMまたはAM) で、予約した放送と別の放送を受信すると、**最後に受信した放送が予約局となり録音されます**。録音動作開始前に再度予約した放送を受信することで、最初に録音の予約をした放送を録音できます。

例：

予約録音に設定した放送：FM 76.0 MHz
最後に受信した放送：FM 82.5 MHz



FM 82.5 MHzが録音されます。

- 予約録音時に設定した受信機能と最後に受信した放送の受信機能が異なる場合 (FMとAM、またはAMとFM) は、予約録音時に設定した受信機能の放送がそのまま録音されます。

例：

予約録音に設定した放送：FM 76.0 MHz
最後に受信した放送：AM 531 kHz



FM 76.0 MHzが録音されます。

予約録音の設定中にひとつ前の操作に戻るには

選局一(◀◀)・戻るボタンを押す。

予約録音の設定を途中で中止するには 停止(■)ボタンを押す。

設定の途中で4分間何も操作しなかった場合も予約録音の設定はキャンセルされます。

予約録音を途中でやめるには 電源ボタンを押す。

電源を切ると、「予約録音」の点滅が止まり、予約録音が終了します。

予約録音の設定を確認するには

「ラジオを予約録音する」の手順4～8の操作を行う。

設定の確認を途中で中止したいときは、**停止(■)ボタン**を押してください。

予約録音を変更するには

「ラジオを予約録音する」の手順4～8の操作を行う。

予約録音のオン/オフを切り換えるには めざまし/予約録音(設定：長押し)ボタンを繰り返し押しす。

「予約録音」の表示が消えると予約録音はオフになります。予約録音の設定をオンにしておくと、翌日以降も同じ設定で毎日予約録音をすることができます。

予約録音を繰り返したくないときは、設定をオフにしてください。

💡 ちょっと一言

一度設定した内容は、時計用電池が入っていれば電源コードを抜いても保持されます。

📌 ご注意

- 時計用電池が消耗して新しい電池に交換すると、時計と予約録音の設定がリセットされます。時計用電池の交換後に予約録音機能を使いたいときは、時計を合わせ(14ページ)、予約録音の設定をやり直してください。
- 予約録音の設定後に本機の電源を切った場合は、録音開始時刻に自動的に電源が入り、予約録音が実行されます。
- テープの再生中に予約録音の開始時刻になった場合は、予約録音の設定に従って自動的にテープの再生が停止してラジオ機能に切り換わりますが、予約録音は実行されません。予約録音が始まるまでに忘れずにテープの再生を止めておいてください。万一このような状態になったときは、電源ボタンを押していったん電源を切り、予約設定をやり直してください。

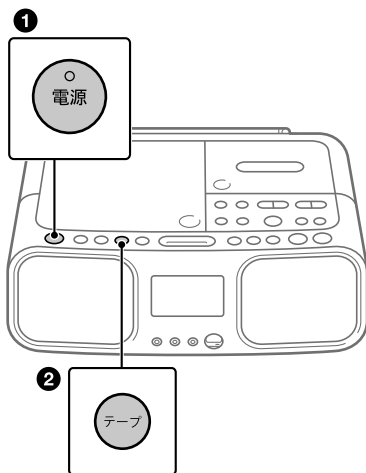
- テープへの録音を行っている場合は、予約録音の開始時刻になると「予約録音」の点滅が始まりますが、予約録音は開始されません。
- 予約録音の開始時刻になる前におやすみタイマーによって本機の電源が切れた場合でも、予約録音の開始時刻になると自動的に電源が入り、予約録音が実行されます。
- おやすみタイマー（40ページ）を設定して予約録音中におやすみタイマーの電源が切れる時刻になった場合、スピーカーから音は出なくなりますが、予約録音は継続されます（表示窓全体が点滅した状態で予約録音が進行します）。
- 録音済みのテープを使った場合は、録音されている内容に上書きして予約録音されます。
- 巻き戻しまたは早送りした状態でカセットテープを入れておくと、その位置から予約録音を始めます。ただし、予約録音の途中でテープが終わるとその後は録音されません。

録音した曲や音声を消去する

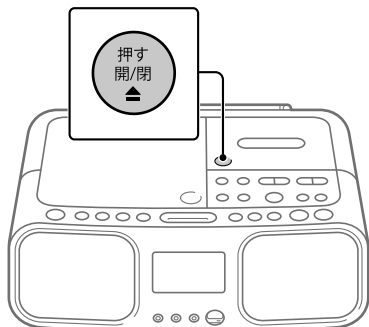
テープに録音した曲や音声を消去するには、上書き録音する必要があります。

- 本体に電源コードを接続する（12ページ）。予期せず上書き録音が終了してしまうことを避けるために、テープの曲や音声を消去するときは電源コードを接続して行ってください。
- カセットのツメが折れているときは消去はできません。穴（録音／誤消去防止穴）をセロハンテープなどでふさいでください。詳しくは、「テープに録音する」（45ページ）の操作前の確認事項をご覧ください。
- マイク入力端子にマイクをつないでいる場合は、マイクを抜いてください。

1 電源ボタンを押して電源を入れ(①)、テープボタンを押す(②)。



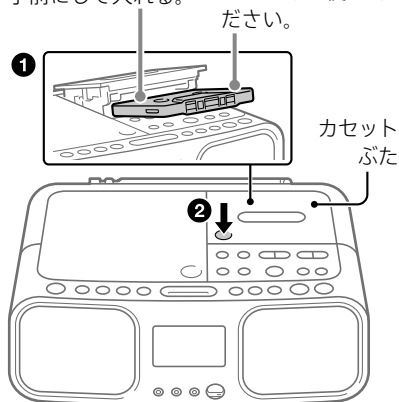
- 2** カセットぶた上の開/閉▲部を押してカセットぶたを開ける。



- 3** カセットを入れ(①)、開/閉▲部を押してカセットぶたを閉める(②)。

消去したい面
(A面またはB面)を
上にし、テープ面を
手前に入れて入れる。

カセットテープは
TYPE I (ノーマル)
テープをお使いく
ださい。

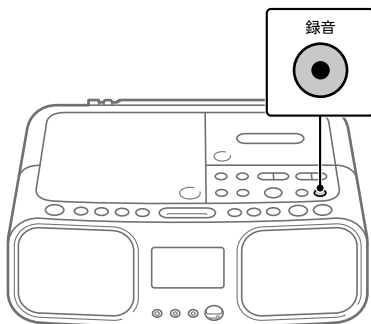


- 4** 録音(●)ボタンを押す。

無音状態が録音され、テープ内の曲や音声
が消去されます。

カセットテープには、A面とB面の両面が
あります。両面とも消去したいときは、片
面ずつ同じ手順で消去してください。

消去に要する時間は、再生時間と同じにな
ります。例えば、片面のテープの先頭から
終わりまでを消去するのに要する時間は、
片面全体の再生時間と同じです。



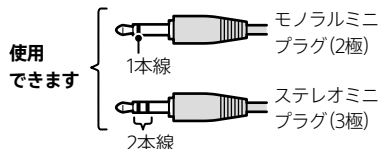
カラオケをする

カラオケをする

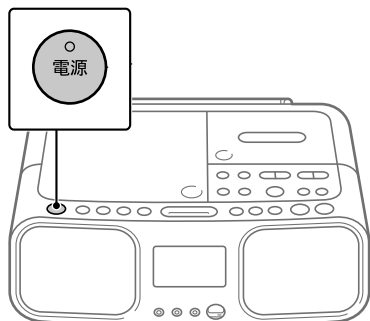
別売りのマイクをつないで、CDやテープなどカラオケになる音に合わせて歌ったり、話したりできます。

操作をする前に、次のことを確認してください。

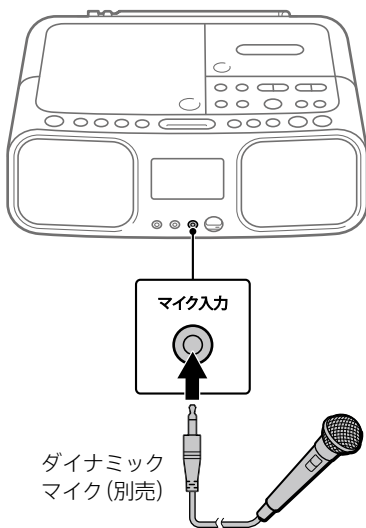
- 本体に電源コードを接続する(12ページ)。
- **マイク音量**つまみを「小」の方にまわす。マイク音量が大きいと、マイクを接続したときに「ピーッ」という音(ハウリング)が起こることがあります。
- 使用するマイクのプラグを確認する。本機では、モノラルミニプラグ(2極)、ステレオミニプラグ(3極)以外のマイクは使用できません。



1 電源ボタンを押して電源を入れる。



2 マイク入力端子にマイクをつなぐ。 マイクにスイッチがある場合はオンにしてください。



3 カラオケになる音の再生を始める。

- 「CDを聞く」(16ページ)
- 「ラジオを聞く」(26ページ)
- 「テープを聞く」(32ページ)
- 「外部機器をつないで聞く」(38ページ)

4 音量+または一ボタンとマイク音量つまみで音量を調節する。



ご注意

- 本機はダイナミックマイクのみ使用できます。プラグインパワー方式には対応していないため、コンデンサーマイクは使用できません。
- エコー内蔵のマイクは「ピーツ」という音(ハウリング)を起こしやすいので、音量を小さくしてお使いください。
- ハウリングが出たら、本機から離れた位置でマイクを使ってください。
- 本機にはボーカルキャンセル機能はありません。

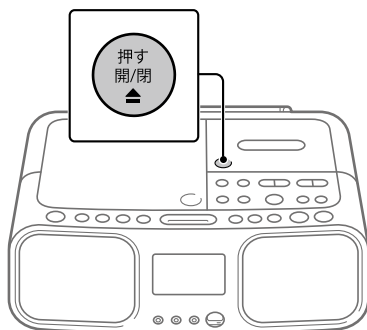
カラオケやマイクの 音声を録音する

カラオケとカラオケに合わせた歌声をマイクを通じてテープに録音したり、マイクの音声だけをテープに録音することができます。

1 電源ボタンを押して電源を入れ、マイク入力端子にマイクをつなぐ。

「カラオケをする」(54ページ)の手順1～2をご覧ください。

2 カセットぶた上の開/閉▲部を押してカセットぶたを開ける。

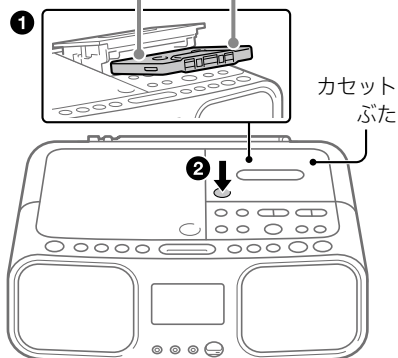


3 カセットを入れ(①)、開/閉△部を 押してカセットぶたを閉める(②)。

録音したい面

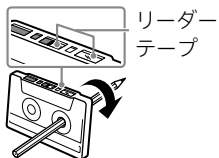
(A面またはB面)を
上にし、テープ面を
手前に入れて入れる。

カセットテープは
TYPE I (ノーマル)
テープをお使いく
ださい。



ご注意

テープの両端には
「リーダーテープ」と
呼ばれる録音できな
い部分があります
(磁性体の塗られて
いない部分)。録音
時の頭切れを防ぐため
に、「リーダーテープ」
の部分は鉛筆などで
送ってからカセット
を入れてください。



4 録音を始める。

カラオケを録音するとき

「テープに録音する」(45ページ)を
ご覧になり、録音を始めてくだ
さい。

曲を指定して録音したいときは、
「テープに録音する」の「1曲だけ
録音するには」(47ページ)を
ご覧ください。

マイクの音声も一緒に録音され
ます。

マイクの音声だけを録音するとき

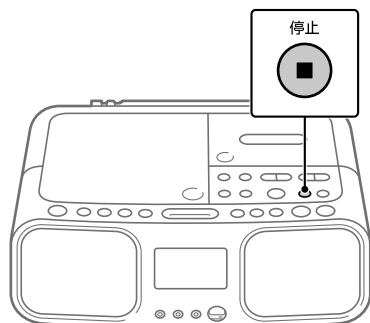
① テープボタンを押す。

② 録音(●)ボタンを押す。

録音(●)ボタンを押したときに「noREC」
と表示される場合は、録音/誤消去防止の
ツメが折れている可能性があります。そ
の場合には、セロハンテープなどでふさ
いでください。

録音をやめるには

停止(■)ボタンを押す。



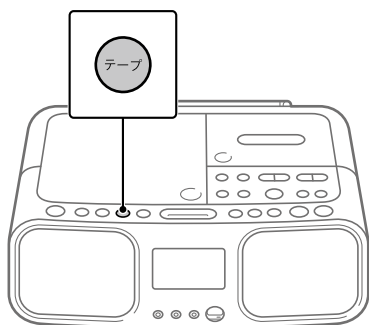
マイクで話す (拡声する)

別売りのマイクをつないで、本機を拡声器としてお使いいただけます。

- 1 電源ボタンを押して電源を入れ、マイク入力端子にマイクをつなぐ。

「カラオケをする」(54ページ)の
手順1～2をご覧ください。

- 2 テープボタンを押す。



- 3 音量+または-ボタンとマイク音量つまみで音量を調節する。

「カラオケをする」(54ページ)の手順4
をご覧ください。

💡 ちょっと一言

録音(●) ボタンを押すと、マイクの音声をカセットテープに録音できます。

困ったときは

本機が正しく動作しないときは、下記の項目をチェックしてください。

それでも正しく動作しないときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

共通

電源コードをつないだのに電源が入らない。

- 本機のAC IN端子と壁のコンセントに、電源コードのプラグがそれぞれしっかりと差し込まれているか確認してください。AC IN端子にプラグを差し込むときは、奥に当たるまでしっかり差し込んでください(12ページ)。
- 電源タップなどを使用せずに、壁のコンセントに電源コードのプラグを直接差し込んでつないでください。

乾電池を入れたのに電源が入らない。

- 時計用電池のみでは、本機は動作しません(11ページ)。本体用電池を入れるか(12ページ)、電源コードをつないで本機をお使いください(12ページ)。
- 単2形乾電池6本を正しい向きに入れ、本機のAC IN端子と壁のコンセントから電源コードのプラグを抜いてください。乾電池を正しく入れていても、電源コードがAC IN端子に接続されていると電源検出スイッチが働くため、本機の電源は入りません。
- 乾電池アダプターなどを使って単2形乾電池以外の電池を使わないでください。単2形乾電池よりも小さい乾電池は、電流量や電池容量が小さく、正しく動作できません。また、乾電池アダプターの形状によっては正常に装着できない場合や、電池端子部分での接触不良などが起こる場合があります。
- 充電電池(単2形ニッケル水素電池)は、同形のアルカリ電池に比べて電圧が低く、電流量や充電容量などの関係で本機の本体用電池としては使用できません。


「」(電源)が点滅する。

- 本体用電池をすべて新しいものと交換してください。
- 買い置きしたまま長時間放置した乾電池を入れた場合、消耗していて使えない可能性があります。新しい乾電池を購入して交換してみてください。


電池の消耗が早い。

- 本体用電池としてマンガン乾電池をお使いの場合、使用時間が著しく短くなることがあります。乾電池で使う場合は、アルカリ乾電池をお使いください。乾電池での使用について詳しくは、「本体用電池を入れる(乾電池で本機を使うとき)」(12ページ)をご覧ください。
- 電池の持続時間については、「主な仕様」の「共通部」をご覧ください(68ページ)。周囲の温度や使用状況、電池のメーカーや種類により電池の持続時間は異なります。

時計が表示されなくなった。

- 時計用電池をすべて新しいものに交換し(11ページ)、時計を合わせ直してください(14ページ)。時計用電池の寿命が近づくと、時計用電池アイコン()が点灯します。交換時期の目安としてください。

音が出ない。

- 音量を調節してください。
- スピーカーで聞くとときは、ヘッドホンを (ヘッドホン)端子から抜いてください。

雑音が入る。

- 近くで携帯電話などの電波を発する機器が使われている場合は、離れた位置に本機を移動してお使いください。

本体から「ブーン」と小さいノイズ音がする。

- 電源の状況により本体から「ブーン」と小さいノイズ音がする場合がありますが、故障ではありません。

電源を入れる、または切ったときに「ポツ」と小さな音が鳴る。

- 電源ボタンを押して電源を入れたり切ったときに、回路動作によりスピーカーから「ポツ」と小さな音が鳴ることがありますが、故障ではありません。

音が割れる、ひずむ。

- 音量を上げたときに音が割れたり、ひずむことがあります。そのような場合は、音量を下げて適度な音量で聞いてください。
- 本体用電池が消耗していると音が割れることがあります。そのような場合には、本体用電池をすべて新しいものと交換してください。

本体用電池での使用中に電源が落ちる。

- 本体用電池の消耗の具合によっては、CDの読み込み時や大きな音量が出るタイミングで本機の電源が落ちる可能性があります。そのような場合は、本体用電池をすべて新しいものと交換してみてください。または電源コードを接続してください。

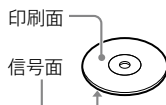
表示窓の明るさが気になる。

- 表示窓の明るさを調整してください(10ページ)。
- 本体用電池で本機をお使いのときに暗く感じる場合は、電池が消耗している可能性があります。電源コードをつなぐか、本体用電池をすべて新しいものと交換してください。

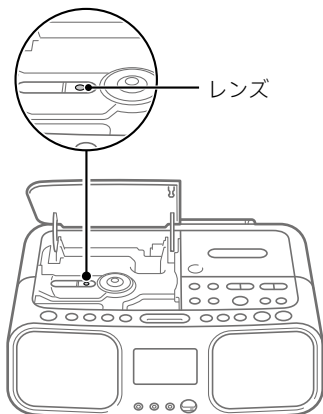
CD

再生が始まらない。

- CDぶたが閉まっていることを確認してください。
- CDが裏返しで入っていないか確認してください。裏返しの場合は、印刷面(文字のある面)を上に入れて直してください。
- CDの信号面に傷やひび割れがないか確認してください。傷やひび割れがあるときは、別のCDを使ってください。詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。



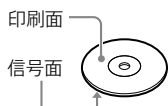
- 指紋やほこりなどでCDが汚れていないか確認し、汚れているときは汚れを拭きとってください。詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。
- CDぶたを開けて、レンズに露(水滴)がついていないか確認してください。レンズに露(水滴)がついているときは、電源を切り、CDぶたを開けたまま1時間ぐらい放置して乾燥させてください。



- 再生可能なファイル(曲)がCD-R(追記型)またはCD-RW(書き換え可能CD)に記録されていない可能性があります。記録されているファイルが本機が対応するフォーマット(69ページ)で作成されているか確認してください。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。
- 本体用電池が消耗しているときは、すべて新しいものと交換してください。または電源コードをつないでください。

CDが入っているのに「no CD」が表示される。

- CDが裏返しで入っていないか確認してください。裏返しの場合は、印刷面(文字のある面)を上にして入れ直してください。
- 読み取りに問題のあるCDを入れた可能性があります。別のCDと取り換えてください。
- CDの信号面に傷やひび割れがないか確認してください。傷やひび割れがあるときは、別のCDを使ってください。詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。



- BD (ブルーレイディスク)やDVDなど本機で再生できないディスクを入れた可能性があります。音楽CD (CD-DA)またはMP3 CDに取り換えてください。

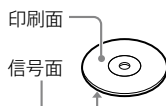
CDを入れたときに「CD」が点滅する。

- 再生可能なファイル(曲)がCD-R (追記型)またはCD-RW (書き換え可能CD)に記録されていない可能性があります。記録されているファイルが本機が対応するフォーマット(69ページ)で作成されているか確認してください。

CDを入れたときに「Err」と表示される。

- 指紋やほこりなどでCDが汚れていないか確認し、汚れているときは汚れを拭きとってください。詳しくは「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。

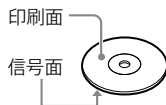
- CDの信号面に傷やひび割れがないか確認してください。傷やひび割れがあるときは、別のCDを使ってください。詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。



- 本機がサポートしていないファイルシステムのCDを入れた可能性があります。ISO9660Level 1/Level 2またはJolietのファイルシステムで作成したCDと取り換えてください(69ページ)。

音が飛ぶ、雑音が入る。

- CDによっては音が飛ぶことがあります。音量を調節して、適度な音量で聞いてください。
- 指紋やほこりなどでCDが汚れていないか確認し、汚れているときは汚れを拭きとってください。詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。
- CDの信号面に傷やひび割れがないか確認してください。傷やひび割れがあるときは、別のCDを使ってください。詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(25ページ)をご覧ください。



- 振動のない場所に本機を置いてください。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、再生時に音が飛んだり雑音が入ることがあります。
- 著作権保護技術付き音楽CDは、再生できない場合があります(66ページ)。

再生が最初から始まらない。

- **再生/FMモード**ボタンを繰り返し押し、リピート再生/シャッフル再生/プログラム再生を解除してください。

データCDのファイルを再生できない。

- 本機がサポートしていないファイルシステムのCDを入れた可能性があります。ISO9660Level 1/Level 2またはJolietのファイルシステムで作成したCDと取り換えてください(69ページ)。
- ファイル名の拡張子が間違っているか、付いていない可能性があります。拡張子が「.mp3」になっているか確認してください。
- オーディオファイルのフォーマットが適切でない可能性があります。本機が対応するフォーマットで作成されているか確認してください(69ページ)。
- MP3 PRO形式で作成されているオーディオファイルは、本機では再生できません。
- 本機が認識可能な最大階層(フォルダレベル)を超えている場合には、再生できません(9階層まで認識可能)。
- データCDに記録されているフォルダの総数が99を超えている場合には、再生できません。
- データCDに記録されているファイルの総数が413を超えている場合には、再生できません。
- パスワードでプロテクトされたファイル、暗号化によって保護されたファイルは再生できません。

再生が始まるまでに時間がかかる。

- 次のような場合、CDの再生が始まるまでにしばらく時間がかかることがあります。
 - － CD内のファイル構造が極端に複雑になっている。
 - － CD内のフォルダ、ファイルの数が多すぎる、またはCD内にMP3形式以外のファイルが含まれている。

CDを聞くと、近くのテレビやラジオに雑音が入る。

- 本機をテレビやラジオからできるだけ離してお使いください。

ラジオ

ラジオが受信できない。

- 本体用電池が消耗しているときは、すべて新しいものと交換してください。または電源コードをつないで家庭用電源で本機をお使いください。
- 本機の置き場所を変えてみてください(27ページ)。
- アンテナの向きを変えてみてください(27ページ)。

FMラジオが受信できない。

- FMアンテナが引き出されていない場合は、FMアンテナを伸ばし、向きや角度を調整してください(27ページ)。

ラジオ受信中、音が小さい、または音質がよくない。

- 建物の中では電波が弱いので、なるべく窓際でお聞かせください(27ページ)。
- 近くで携帯電話が使用されていたり、近くに家電製品がある場合には、離れた場所を受信してください(28ページ)。

FMラジオ受信中、テレビの画像が乱れる。

- 近くに室内アンテナを使用したテレビがある場合には、テレビから離れた位置でFMラジオを受信してください。

聞きたい放送局が受信できない。

- 選択したプリセット番号が間違っている可能性があります。正しい放送局のプリセット番号を選んでください(31ページ)。
- 別の放送局が登録された**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを押した可能性があります。聞きたい放送局が登録された**お気に入りラジオ局(登録：長押し)**ボタンを押してください(32ページ)。
- 周波数が合っていない可能性があります。聞きたい放送局の周波数に合わせてください(27ページ)。
- お住まいの地域や環境によっては、一部の放送局の受信状態が良くない場合があります。
- 受信状態がよくなる場合は、「ラジオの受信場所とアンテナの調整について」(27ページ)もご覧ください。

雑音が入る。

- 本機を電灯線、照明機器、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入る場合があります。
- 聞きたい放送局の周波数に合っているか確認してください。

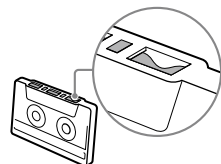
AMラジオの録音時、「ピー」という音が出る。

- 再生/FMモードボタンを繰り返し押し、最も雑音が少なくなるISSの設定を選んでください(47ページ)。

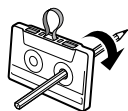
テープ

テープが絡む。

- テープのたるみが原因です。

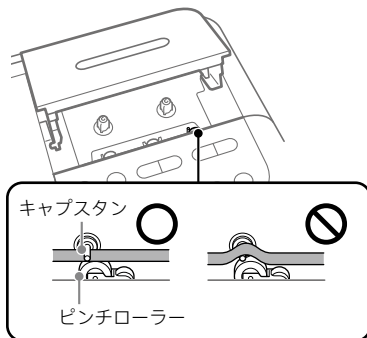


鉛筆などでたるみを巻き取るか、カセットデッキに入れたあと、再生や録音を始める前に数秒間早送りまたは巻き戻しをしてたるみを取ってください。



操作ボタンを押してもテープが動かない、再生速度がおかしい。

- テープがたるんでいたことにより、テープが正常な位置を通っていない可能性があります。一度カセットを取り出して、テープのたるみをとってから入れ直してください。



テープがキャプスタンとピンチローラーの間を正常に通っていないと、「テープが動かない」、「再生速度がおかしい」といった現象が起きます。故障の原因にもなりますので、テープを入れるときはあらかじめテープのたるみがないか確認し、たるんでいる場合には、必ずたるみを取ってから入れてください。

雑音が多い、音質がよくない。

- 再生/録音ヘッドを清掃してください(36ページ)。

音がひずむ。

- TYPE II (ハイポジション)、TYPE III (フェリクロム)またはTYPE IV (メタル)テープを使っている場合は、TYPE I (ノーマル)テープを使ってください(69ページ)。
- 同じテープに何度も録音している場合は、新しいテープを使ってください。90分を超える長時間テープは薄く伸びやすいため、何度も使っているとひずみやすくなります。90分以下のテープをお使いください。

古いテープが再生できない。

- 再生/録音ヘッドを清掃してください(36ページ)。
- カビなどが付着したテープはお使いにならないでください。ヘッドの汚れがひどくなり、再生できなくなったり、故障の原因となります。

- 劣化したテープはお使いにならないでください。テープの磁性体がはがれてヘッドに付着し、再生できなくなったり、故障の原因となります。また、ヘッドが汚れている可能性もありますのでヘッドの清掃も試してみてください(36ページ)。
- 表示窓に「めざましタイマー」が表示されていることを確認してください。表示されていないときは、めざましタイマーの設定をオンにしてください(43ページ)。

- 音源にCDを選んだ場合(42ページ)、再生可能なCDが入っているか確認してください。詳しくは、「再生できるディスク」(69ページ)をご覧ください。

録音ができない。

- カセットの上下、面を正しく入れてください(46ページ)。
- カセットデッキに入れたカセットのツメが折られている場合には、穴をセロハンテープなどでふさいでください(45ページ)。

前の録音を上書き消去しても完全に消えない。

- 消去ヘッドを清掃してください(36ページ)。
- TYPE II (ハイポジション)、TYPE III (フェリクロム)またはTYPE IV (メタル)テープを使っている場合は、TYPE I (ノーマル)テープを使ってください(69ページ)。

めざましタイマーの音源にCDを選んだのにブザー音が鳴る。

- CDが入っているか確認してください。音源にCDまたはカセットテープを選んだときに、CDやカセットが入っていない場合、「BUZZER」になります(42ページ)。

予約録音が動作しない。

- 時計を正しい時刻に合わせてください(14ページ)。
- カセットのツメが折られている場合は、穴をセロハンテープなどでふさいでください(45ページ)。

外部機器

外部機器からの入力音が割れる、ひずむ。

- 接続した機器側で音量を下げてください。接続した機器の音量が大きすぎる場合、音が割れたり、ひずんだりすることがあります。

音が小さい、聞こえない。

- 接続した機器側で音量を上げてから、本機の音量つまみを使って音量を調節してください。接続機器側の音量が小さすぎる場合、本機の音量つまみで音量を上げてても小さく聞こえることがあります。

タイマー

めざましが働かない。

- 時計を正しい時刻に合わせてください(14ページ)。
- めざましタイマーの設定をやり直してください(41ページ)。電源コードをつないでお使いの場合でも、停電が発生した場合には本機が保持していためざましタイマーの設定が消去されます。

停止ボタンを押して録音を止めたのに、

「予約録音」の点滅が止まらない。

- 予約録音中に予約録音をやめたいときは、電源ボタンを押してください。

カラオケ

マイクの音声が出ない、

マイク音声は録音されない。

- マイク入力端子にマイクのプラグを差し込むときは、奥に当たるまでしっかり差し込んでください。
- マイクに電源スイッチがある場合は電源を入れてください。
- マイクの音量が出ないときは、**音量+**または**−**ボタンと、**マイク音量**つまみで音量を調節してください。
- コンデンサーマイク(プラグインパワー方式)を使っている場合は、マイクを交換してください。本機はダイナミックマイクのみ使用できます。プラグインパワー方式には対応していないため、コンデンサーマイクは使用できません。

上記以外の症状で正常に動作しないときは、電源コードを差し込み直すか、電池を入れ直してください(12ページ)。症状が改善する場合があります。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご連絡ください。

サポートページのご案内

ラジオ/CDラジオ・ラジカセサポートのホームページでは、よくあるお問い合わせとその回答をご案内しています。

URL : <https://www.sony.jp/support/radio/>



携帯電話やスマートフォンなどの二次元コード読み取り機能でご利用ください。

メッセージ一覧

本機の使用中に、次のメッセージが表示、または点滅することがあります。

CD

FULL

- 26曲(ステップ)以上プログラムしようとした。

noSTEP

- プログラムした曲(ファイル)がすべて削除された。

PUSH STOP

- シャッフル再生(22ページ)、プログラム再生(22ページ)またはプログラムリピート再生(24ページ)中に**再生/FMモード**ボタンを押して再生モードを切り換えようとした。CDの再生を停止してから切り換えてください。
- 予約録音以外での録音中に無効なボタンを押した。

no[]

- CDが入っていないため、再生やテープへの録音ができない。
- CDに傷やひび割れなどがあり、読み取りできない(60ページ)。

□□

- 本機が対応していないフォーマットのファイルが記録されている(60ページ)。

Err

- CDに傷やひび割れなどがあり、読み取りできない。または本機が対応できないファイルシステムのCDが入っている(60ページ)。

テープ

noREC

- テープのツメが折れているため、**録音(●)**ボタンを押しても録音ができない(63ページ)。
- 予約録音が始まったときに、テープが終端まで送られた状態になっていた。テープを巻き戻すか、A面またはB面を入れ替えて、予約録音の設定をやり直してください(48ページ)。

noTAPE

- カセットぶたが開いている、またはテープが入っていない状態で**録音(●)**ボタンを押した。

CLEAN

- ヘッドクリーニングモードになっている(36ページ)。再生/録音ヘッド、消去ヘッドの清掃をしないときは、**停止(■)**ボタンを押して、ヘッドクリーニングモードを解除してください。

ErrC31

- テープが切れている。テープが切れている状態で早送りの動作が8分以上続いたときは自動的に終了し、「Err C31」が点滅します。テープが切れている場合には、デッキ内で巻き込まれている可能性もありますので、カセットぶたを開いてゆっくりとカセットテープを取り出してください。巻き込まれたテープの状態がひどく、カセットテープを取り出せないときは、ソニーの相談窓口(71ページ)またはお買い上げ店にお問い合わせください。

ErrC32

- カセットテープの使用中に動作異常が発生した。まれに「Err C32」が表示されることがあります。「Err C32」が表示されたときは電源コードのプラグをコンセントから抜き、再度、プラグをコンセントにつないで電源を入れてみてください。電源を入れても「Err C32」が消えない場合は、ソニーの相談窓口(71ページ)またはお買い上げ店にお問い合わせください。

使用上のご注意

設置時のご注意

- 本機のスピーカーには強力な磁石を使っています。次のようなものは本機のスピーカーのそばに置かないでください。磁気に変化して不具合が起きることがあります。
 - ー 時計
 - ー クレジットカードなどの磁気カード
 - ー カセットテープ、ビデオテープなどの磁気テープまた、本機をテレビの近くには置かないでください。テレビの画像が乱れることがあります。
- 本機は防水仕様ではありません。特にキッチンなどの水場や、雨や雪、湿度の多い場所で使用するときは、水がかからないようご注意ください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤、薬品などが塗られている場所に本機を設置すると、変色、染みなどが残ったり、内部部品の腐食などによる接触不良やショートなどを引き起こすことがあります。
- 照明器具やヒーターなど、熱を発生する器具のそばに本機を置かないでください。外装が変形したり、故障を引き起こす恐れがあります。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- CDぶたやカセットぶたを開けたまま放置しないでください。内部にゴミやほこりが入り、故障の原因になることがあります。
- 空気が乾燥する時期にヘッドホンや本機を使用すると、耳にピリピリと痛みを感じる場合がありますが、ヘッドホンや本機の故障ではなく、人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身につけていただくことにより、軽減されます。
- 本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなど、機器表面や内部に水滴がつくことがあります(結露)。結露が起きたときは電源を切り、結露がなくなるまで放置し、結露がなくなってからご使用ください。結露時のご使用は機器の故障の原因となる場合があります。
- テープを長い間使わなかったときは、数分間再生してからお使いください。よい状態でお使いいただけます。

温度上昇について

- 本機を長時間お使いになると、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。

本機のお手入れのしかた

- 本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきます。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

ノイズについて

- 再生中や録音中に本機を電灯線、照明機器、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。

著作権保護機能付き音楽ディスクについて

- 本機は、コンパクトディスク(CD)規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生できない場合があります。

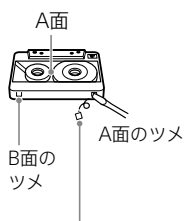
DualDiscについて

- DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。なお、この音楽専用面はコンパクトディスク(CD)規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

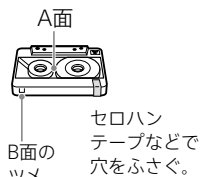
テープの録音を守るために

- ツメを折ると録音できなくなるので、誤って録音内容を消してしまうミスが防げます。ツメを折っても穴をセロハンテープなどでふさげば再び録音できます。

録音できないようにするとき



再び録音するとき



折ったツメは、必ず廃棄してください。誤って本体内部に入ると故障の原因になります。

劣化していないテープ、汚れないテープをお使いください

- 汚れがひどくなるとヘッドに付着し、音が小さい、途切れる、音が出ないなどの症状が出て、きれいな音で録音や再生ができなくなり、故障の原因となります。

ヘッドホン(別売)使用時のご注意

- 音量を調節して、耳を刺激しないように適度な音量で聞いてください。

マイク(別売)のハウリングについて

- エコー内蔵のマイクは「ピーツ」という音(ハウリング)を起こしやすいので、音量を小さくしてお使いください。
- ハウリングが出たら、本機から離れた位置でマイクを使ってください。

主な仕様

CDプレーヤー部

型式	コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
チャンネル数	2チャンネル
ワウ・フラッター	測定限界以下 (JEITA*)
周波数特性	20Hz - 20,000Hz +1/-2dB (JEITA*)
対応ファイルフォーマット	MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3)

ラジオ部

受信周波数	FM : 76.0MHz - 108.0MHz AM : 531kHz - 1,710kHz
アンテナ	FM : ロッドアンテナ AM : フェライトバーアンテナ内蔵

カセットデッキ部

トラック方式	4トラック2チャンネル
周波数範囲	TYPE I (ノーマル)カセット 80Hz - 10,000Hz (JEITA*)

共通部

スピーカー	フルレンジ: 8cm、コーン型、2個
入力端子	音声入力(ステレオミニジャック) 1個 マイク(3.5mm ミニジャック) 1個
出力端子	ヘッドホン(ステレオミニジャック) 1個 負荷インピーダンス 16Ω - 32Ω
実用最大出力	1.5W + 1.5W (JEITA*)
電源	本体用 : 家庭用電源 (AC 100V 50Hz/60Hz) 単2形乾電池6個使用 (DC 9V) (別売) 時計用 : 単4形乾電池3本使用 (DC 4.5V) (別売)
消費電力	10W 1W以下(電源オフ時)

電池持続時間 (本体用) *2	CD再生時 (JEITA*) 約12時間 (音量22程度) FM受信時 約25時間 (音量14程度) テープ再生時 約19時間 (音量22程度)
電池持続時間 (時計用) *3	約6ヶ月間
最大外形寸法	約320mm × 134mm × 199mm (幅 × 高さ × 奥行き) (最大突起部含む)
質量	約2.4kg (乾電池除く) 約2.8kg (乾電池含む)

付属品

電源コード(1)、取扱説明書・保証書(1)、
ヘッドクリーニングキット(1)

- *1 JEITA (電子情報技術産業協会) 規格による測定値です。
- *2 ソニー単2形(LR14) アルカリ乾電池使用時。
- *3 ソニー単4形(LR03) アルカリ乾電池使用時。

本体用および時計用電池は、周囲の温度や使用状況、電池のメーカーや種類により、上記の電池持続時間と異なることがあります。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、この取扱説明書の全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されております。
- あなたが録音したものに著作物となるデータが含まれている場合、個人として楽しむなど私的使用の目的の他は、著作権法上、権利者に無断で使用することができません。著作権で守られたデータを録音したカセットテープは、著作権法で規定された範囲内で使用してください。

商標について

- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、企業名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは省略している場合があります。

ディスクとカセットテープについて

再生できるディスク

ディスクを再生するときは、ディスクの種類を確認し、本機が対応するディスクをご利用ください。

ディスクの種類	曲/ファイルのフォーマット	対応
CD、 CD-R/CD-RW*1	CD-DA*2	可
CD-R/CD-RW*1	MP3	可
	WMA	不可
	AAC	不可
DVD		不可
BD (ブルーレイディスク)		不可

*1 音楽CD (CD-DAフォーマット)の規格に準拠していない形式で記録されたCD-R/CD-RW、ISO9660Level 1/Level 2またはJolietのフォーマットに準拠しないCD-R/CD-RWは再生できません。

*2 CD-DAはCompact Disc Digital Audioの略で、一般の音楽CDに使用されている、音楽収録用の規格です。CD-DAフォーマットに準拠している一般の音楽CDには、右のロゴマークが記載されています。



ご注意

- 本機では円形のCDのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状(星型、ハート型、カード型など)をしたCDを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。
- 8 cm CDは、周囲の環境や使用状況により再生できない場合があります。
- 本機はCD再生専用です。CD-R/CD-RWに録音はできません。
- CD-R/CD-RWの再生では、お使いになったディスクの品質や記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。

再生できるファイルについて

本機が対応するオーディオファイルのフォーマットは、次のとおりです。

- MP3 (MPEG-1 AUDIO Layer-3)
拡張子: .mp3

ご注意

- MP3 PRO形式で作成されているオーディオファイルは、本機では再生できません。
- 正しい拡張子をファイル名が持っていない場合、フォーマットが異なっている場合は、本機では再生できない、または再生するときに不具合が生じる場合があります。

フォルダ数・ファイル数の上限について

本機が再生対象として認識できるMP3 CDのフォルダ数とファイル数は、次のとおりです。

最大フォルダ数: 99 (ルートフォルダ含む)
最大ファイル数: 413

使用できるカセットテープ

カセットテープの再生、カセットテープへの録音には、TYPE I (ノーマル)のテープをご利用ください。本機は、TYPE II (ハイポジション)、TYPE III (フェリクロム)、TYPE IV (メタル)のテープには対応していません。

カセットテープの種類	イコライザー時定数	対応
TYPE I (ノーマル)	120 μ s	可
TYPE II (ハイポジション)	70 μ s	不可
TYPE III (フェリクロム)	70 μ s	不可
TYPE IV (メタル)	70 μ s	不可

ご注意

カセットテープによっては、TYPE名やイコライザー時定数の値の記載が製品にない場合があります。お買い上げ時にご確認ください。

長時間テープをお使いのときは

90分を越えるテープは長時間使用には便利ですが、薄く伸びやすいテープです。こきざみな走行、停止、早送り、巻き戻しなどを繰り返すと、テープが機械に巻き込まれる場合がありますので、ご注意ください。

エンドレスカセットテープについて

エンドレスカセットテープはお使いにならないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。

保証書とアフターサービス

保証書

所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になったり、サポートページ(「サポートページのご案内」(64ページ)参照)の情報も参考にしてお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店またはソニーの相談窓口(下記)にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルオーディオシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

製品登録のおすすめ

ソニーは、製品をご購入いただいたお客様のサポートの充実を図るため、製品登録をお願いしております。詳しくはウェブ上の案内をご覧ください。

◆パソコン・スマートフォンから
<https://www.sony.co.jp/radio-regi/>



◀ 二次元コードで
スマートフォンからアクセス

製品のご登録についてのお問い合わせ

ソニーマーケティング（株）
 My Sony Club お客様窓口
 電話：フリーダイヤル 0120-735-106
 携帯電話・PHS・一部のIP電話：050-3754-9639

型名：CFD-S401

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
 ホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	
フリーダイヤル	0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話	050-3754-9577
修理相談窓口	
フリーダイヤル	0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話	050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。	



左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「304」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX(共通)0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

索引

ア行

- 頭出し
 - CD 19
 - テープ 34
- アンテナ 27
- 1曲リピート再生 21
- お手入れ
 - CD 25
 - 再生ヘッド／録音ヘッド 36
 - 消去ヘッド 36
 - 本体 66
- おやすみタイマー 40
- 音声入力端子 38
- 音量調節 18

カ行

- 拡声する 57
- カセットテープ
 - 再生する 32
 - 種類 69
 - 録音する 45、48、55
- 画面
 - 再生画面 17、33
 - 表示窓 10
 - メッセージ 65
 - ラジオ 26
- カラオケをする 54
- 乾電池を入れる
 - 時計用電池 11
 - 本体用電池 12
- 曲送り・曲戻し
 - CD 19
 - テープ 34
- クリーニング
 - CD 25
 - テープ 36
- 繰り返し聞く 21

サ行

- 再生する
 - CD 16
 - CDのいろいろな再生方法 20
 - 外部機器 38
 - テープ 32
- 再生モード 20
- 再生／録音ヘッド 36
- 削除する
 - プログラム登録曲 23
- シャッフル再生 22
- 順不同に聞く 22
- 消去する
 - テープ 52
 - 消去ヘッド 36
- ステレオ再生 (FMラジオ) 27
- スヌーズ機能 43
- 接続する
 - 電源コード 12
 - マイク 54
- 全曲リピート再生 21

タ行

- データCD 17
- テープ
 - 再生する 32
 - 種類 69
 - 録音する 45、48、55
- テレビの音声を聞く 38
- 電源
 - 電源コードを接続する 12
- 電池
 - 電池残量を調べる 13
 - 時計用電池を入れる 11
 - 本体用電池を入れる 12
- 時計を合わせる 14

ハ行

- 早送り・早戻し
CD 19
- 早送り・巻き戻し
テープ 34
- 表示窓の明るさ 10
- ファイル 69
- フォルダ 19、69
- プログラム再生 22
- プログラムリピート再生 24
- ヘッドクリーニングモード 36
- ヘッドホン端子 39
- 放送局の自動登録 29
- 放送局の手動登録 30
- 本体各部のなまえ 9

マ行

- マイク入力端子 54
- マイクを使う 54
- めざましタイマー 41
- メッセージ 65
- モノラル再生(FMラジオ) 29

ラ行

- ラジオ
 - アンテナを調整する 27
 - お気に入りラジオ局ボタンで聞く 32
 - お気に入りラジオ局ボタンに登録する 31
 - 聞く 26、31、32
 - 受信状態をよくする 27
 - 放送局に登録する 29、31
 - 予約録音する 48
- 録音する
 - カラオケ 55
 - テープ 45
 - マイク音声 55
 - 予約録音 48

A-Z

- AMラジオ 26
- CD
 - お手入れ 25
 - 再生する 16
 - 再生できるディスク 69
 - データCD 17、18、19
- FMラジオ 26
- MP3 17、18、19、69

保証書

持込修理

品名	パーソナルオーディオシステム
型名	CFD-S401
お買上げ日	年 月 日

本書は、本書記載内容(下記記載)で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から下記期間中に故障が発生した場合は、お客様欄にご記入の上、修理をお申付けください。

ソニー特約店

お問合せ先：修理相談窓口
 フリーダイヤル：0120-222-330
 携帯電話・PHS・一部のIP電話からは、050-3754-9599
 ホームページ：<https://www.sony.jp/support/>
 ソニーマーケティング株式会社 東京都港区港南1-7-1 〒108-0075

保証期間	お買上げの日から 1年
お客様住所 お名前	電話 - - 様

無料修理規定

1. 正常な使用状態で保証期間内に製品(ハードウェア)が故障した場合には、本書に従い無料修理をさせていただきます。本書記載の修理対応の種別(出張修理、持込修理、引取修理)をご確認の上、以下の要領でご依頼および本書(再発行しませんので、大切に保管してください)の提示・提出をお願いいたします。なお、受付窓口の種類は、(1)お買上げのお店、(2)お近くのソニーサービスステーション、(3)本書に記載の修理相談窓口の3種類です。

種別	受付窓口	保証書の提示・提出	注意事項
出張修理	(1)(2)(3)	出張修理担当者が訪問した際に提示	※1
持込修理	(1)(2)	持参した製品の修理依頼の際に提示	※2
引取修理	(3)	製品の引取時に指定業者へ提出	

※1 離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理となる場合、出張費用(実費)を申し受けます。

※2 (1)(2)へのご依頼が難しい場合は、(3)にご相談ください。

2. お客様のご要望により、出張修理の種別について引取修理を、持込修理の種別について出張修理・引取修理を、引取修理の種別について出張修理を行う場合は、別途所定の料金を申し受けます。
3. 保証期間内の故障でも次の場合には有料となります。
 - (1)本書のご提示がない場合
 - (2)本書にお買上げ日およびソニー特約店の記載がない場合または本書の記載を書き換えた場合
 - (3)保証期間中に発生した故障について、保証期間終了後に修理依頼された場合
 - (4)使用上の誤り(取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用をしなかった場合を含む)による故障・損傷
 - (5)他の機器から受けた障害または不当な修理、改造による故障・損傷
 - (6)お買上げ後の移設、輸送、落下などによる故障・損傷
 - (7)火災、地震、風水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧などによる故障・損傷
 - (8)業務用など一般家庭用以外での使用による故障・損傷
 - (9)消耗・摩耗した部品の交換、汚損した部分の交換
4. 故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。
5. 修理に際して再生部品・代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理・処分させていただきます。
6. 本書に基づく無料修理(製品交換を含む)後の製品については、最初のご購入時の保証期間が適用されます。
7. 故障によりお買上げの製品を使用できなかったことによる損害については補償いたしません。
8. 記録媒体を搭載または使用する製品の場合、故障の際または修理・交換により記録内容が消失等する場合がありますが、記録内容についての補償はいたしません。
9. 本書は日本国内でのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

修理メモ

*本書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
 *保証期間後の修理については、取扱説明書等をご覧ください。 T02-5

ソニーの相談窓口
 については、71ペー
 ジをご覧ください。

©2017 Sony Corporation
 Printed in China

